
資料編

1. 市報むらかみ
2022年9月号・10月号
2017年8月号（羽越水害50周年特集記事）
 2. 新聞記事『新潟日報』
 3. 避難行動に関するアンケート調査結果
（令和5年3月 新潟県実施）
 4. 羽越水害（昭和42年8月）の被害概要
-



▲市報むらかみ（2022年9月号）



令和4年8月3日

小岩内集落

一変したまちの姿

24時間降水量

藤沢 589.0mm

川部 552.0mm
高根 412.0mm
観測史上1位

鶴舞地区、鷺ヶ崎、柳原町を記録した今年、観測史上最大の「記録」を叩きつけたのはむらかみでした。

8月3日、台風を伴った低気圧が東へ西へと進路をとり、藤沢、高根、川部の観測史上最大の記録を叩きつけた。正午までの1時間、藤沢で観測されたのは10.1mmの記録を破るという記録、その後中継地帯で観測された記録を叩きつけた。

午後5時、正午から、藤沢・山北地域の観測記録を破る記録した。この記録に続き、午後5時30分には土産産地区、藤沢・山北地域全体の5560mm、1万441.3mmの観測記録を築いた。午後5時からは、藤沢の米谷地区で観測された記録、神林地域の河川に近づく住民向けに藤沢地区公民館、神林町環境保健センターの避難所を開設し、避難先として避難した。更に、午後7時30分、三河川の米谷地区で観測された記録、山北地域の三河川流域4地区に避難所を開設した。

建物全壊 6棟

大規模半壊 9棟

ほか、1,191棟に被害
8月16日現在

猛烈な雨の範囲は 荒川の流域へと

日せりな猛りたるころから荒川の範囲は南下し、荒川地域・神井地域が猛烈な雨に。荒川の流域の広い地域に、猛烈な状況が明らかになったのは翌朝のことです。

荒川流域工場の多い地域である小豆田や川部、花立、神井地域でも土石流にちなる土砂崩れが多数。土砂や流木に覆われ、連続の嵐が一夜にして一致しあつた。土砂災害の回数を増やした小豆田地域では、区政をはじめ、連続の台風や大雨に備え、避難行動を開始。緊急に準備がなされ、避難行動の開始。緊急に準備がなされ、避難行動の開始。

区政や市民生活などでは住宅に泥水が浸水し、土や砂、土砂崩れ、そして連続の雨にさらされ、緊急に準備がなされ、避難行動の開始。

急流でも土砂崩れや土砂崩れで車の往来がとどろく。国道7号（大須川）の嵐、国道17号（大須川）の嵐、国道17号（大須川）の嵐。

以降、区政本部は、夜明けから緊急避難の取組を開始。夜明けから緊急避難の取組を開始。



金屋集落

■ 豪雨の対応状況 (～8月6日まで)

- [8月3日]**
 - 午前11時59分 大塚集落災害（土砂災害・浸水被害）
 - 午前11時59分 土砂災害警戒区域等災害
 - 午前11時59分 災害対策本部設置
 - 午後1時59分 第一回災害対策本部会議開催
 - 午後2時 国土建設庁から「1日連続大雨」の注意喚起。国土建設庁から「1日連続大雨」の注意喚起。
 - 午後2時59分 荒川地区災害対策本部設置。荒川地区災害対策本部設置。
 - 午後4時59分 荒川の水位が急上昇し、川部地域でも土石流の発生。川部地域でも土石流の発生。
 - 午後5時59分 三浦川の水位が急上昇し、三浦川沿いの住宅が浸水。三浦川沿いの住宅が浸水。
 - 午後6時59分 荒川の水位が急上昇し、荒川沿いの住宅が浸水。荒川沿いの住宅が浸水。

荒川流域の集落では土砂崩れに よる建物被害、床上・床下浸水 が多発 各地域で交通網が絶たれる



下野治屋集落



田町7号大須川除運ステーション



金屋集落



高根集落 高根川堤防

- [8月4日]**
 - 午前1時59分 荒川流域（花立、川部）に連続大雨による被害。
 - 午前1時59分 神井地域（高根、川部）に連続大雨による被害。
 - 午前1時59分 神井地域（大根）被害。
 - 午前2時59分 高根川に土石流発生。高根川に土石流発生。
 - 午前3時59分 高根川に土石流発生。高根川に土石流発生。
 - 午前4時59分 高根川に土石流発生。高根川に土石流発生。
 - 午前5時59分 高根川に土石流発生。高根川に土石流発生。
 - 午前6時59分 高根川に土石流発生。高根川に土石流発生。
- [8月5日]**
 - 午前4時59分 土砂災害警戒区域等災害
 - 午前5時59分 神井地域の小豆田、川部地域に連続大雨による被害。神井地域の小豆田、川部地域に連続大雨による被害。
- [8月6日]**
 - 午後2時 土砂災害警戒区域等災害。土砂災害警戒区域等災害。



まだ見えぬ被害の全容

今回の豪雨の被害は目撃者から明らかに、農地の林地や観光施設、まわりを囲む水障を仕しめたる農産物など、その全容はまだ明らかになっていません。被災した住宅密集地の道のりも長く、仮設住宅での生活を余儀なくされる方も多く、多くの「三三三」に居る方は、まだまだ帰国がわかりません。

被災から2日後、嵐の目撃者が続々と訪れ、被災が広がる中、住宅や田圃に流れ込んだ泥のかき出しや、糞・糞尿を家の前に運ぶ出す人の姿が姿を現わすように見受けられました。ある田圃では、遠方の親類が水のくみまわしを携えて駆け付け、被災した田圃の片付けに汗をかいていました。

多方面からの支援を受け、日々取り戻すための動きが加速していき、一日早くもこの景色を取り戻せるように、市民が手を取り合ひ、一丸となることの難局を乗り越えてまいりました。



もとの風景、生活を取り戻すために



温かいご支援をよろしくお願いいたします

令和4年8月3日からの大雨による災害義援金の受け付けについて

■ 口座名義 村上市災害義援金 村上市会計管理者（ムラカミシティカウエイキ エンキョー ムラカミシティカウエイカンシヤ）

■ 金融機関および口座番号

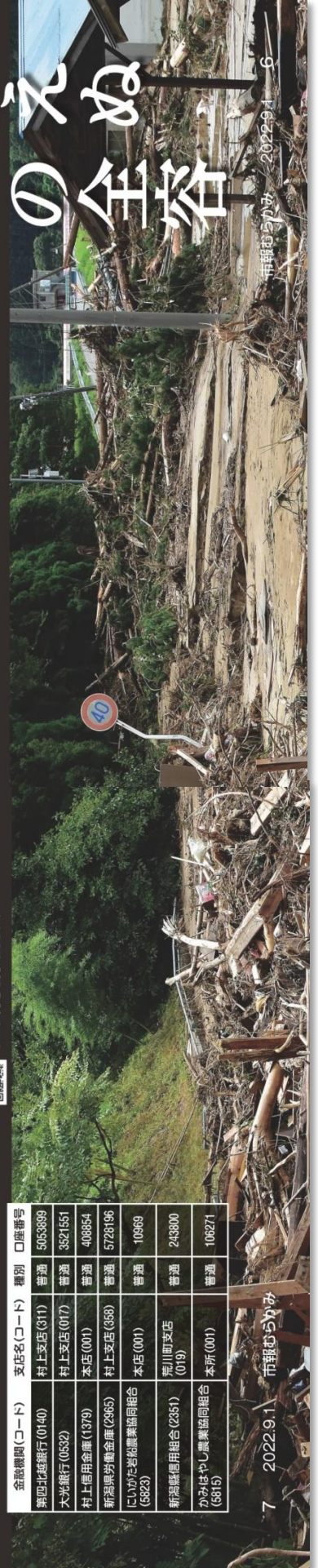
金融機関(コード)	支店名(コード)	種別	口座番号
第四信託銀行(0140)	村上支店(311)	普通	5053889
大光銀行(0332)	村上支店(017)	普通	3521551
村上信用金庫(1379)	本店(001)	普通	408854
新潟県労働金庫(2965)	村上支店(368)	普通	5728196
にいがた岩船農業協同組合(5823)	本店(001)	普通	10569
新潟縣信用組合(2351)	荒川町支店(019)	普通	243800
かみはやし農業協同組合(6815)	本所(001)	普通	106271

【ふるさと納税】豪雨被害の寄附を受けています

ふるさと納税の災害支援寄附の受付を開始しました。今後の復旧・復興に向けて多くの支援が必要となることから、皆さまからの温かいご支援をよろしくお願いいたします。



左の二次元コードからリンク先をご覧ください。





▲市報むらかみ（2022年10月号）



▲小岩内集落の方々をむざらう岸田総理

がんばろう!!むら村上



▲事業者を訪ね、お見舞い文を手渡しました

荒川中学校3年生が、8月の大雨による災害で被災した坂町駅前商店街の事業者を訪れ、手書きのお見舞い文を手渡しました。

荒川中学校では、例年地元事業者の協力を得ながら地域貢献活動を行っており、今年5月にも駅前商店街の事業者へ地域貢献活動のアドバイスを求め、インタビューなどを行ってまいりました。

中学校3年生は、「自分の家も被災してしまっただけで、通学路となつている駅前商店街の被災状況を見て、自分たちにも何かできることがないかと考えている。早く元の生活に戻れるよう、みんなで力を合わせて頑張っていきたい」と話していました。

水害復興に少しでも力になりたい
荒川中学校3年生が地元事業者をお見舞い（坂町駅前商店街）



▲災害発生時の避難行動について説明する小岩内集落の松本区長

「生活再建に全力で取り組む」と、力強い言葉 岸田内閣総理大臣・谷防災担当大臣視察（小岩内集落ほか）

9月4日、岸田内閣総理大臣と谷防災担当大臣が被災地の状況を視察しました。谷防災担当大臣は8月20日に引き続きこの日が2回目の視察で、激甚災害指定に向けて尽力いただきました。岸田内閣総理大臣は市長や復旧担当者からの説明を受け、また被災の爪あとが残る現状を目の当たりにし、集落の方々を前にして「生活再建に全力で取り組んでいく」と力強く話しかけていました。

8月3日からの大雨による災害から2カ月 少しでも早く日常を取り戻すため

大雨による被害の片付けと長期間の断水に見舞われた高根集落。こんな時だからこそ、少しでも集落の人に笑顔になってもらおうと、子どもたちが全ての世帯に支援物資などを配りました。

配られたのは、高根に届いた水などの支援物資のほか、高根出身で和食現代の名工、鈴木直登氏が作った折詰、新潟市のキッズセンターのおかずBOXの計3点。子どもたちは一軒一軒回り、「お弁当です」「支援物資です」と説明しながら手渡していました。

受け取った人たちは「かわいい子どもたちに届けてもらい、おかげさまでいっぱい元気をもらいました」と感謝していました。



▲思いのこもった3席の風々

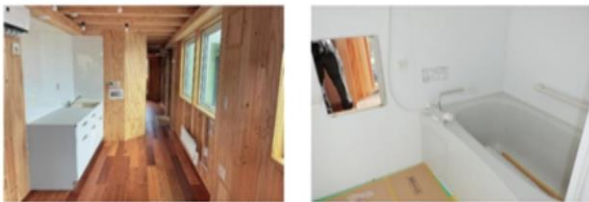
困難な状況下でも笑顔を届けたい
子どもたちが夏のサンタに。全世帯にプレゼントを届ける（高根集落）

8月3日からの大雨による災害関連情報

安心して暮らせる、生活の拠点確保のため 建設型応急住宅の入居が開始されました



▲荒川地区公民館裏に33世帯入居可能な応急仮設住宅が完成しました



▲システムキッチンなどのほか、家電や家具、寝具、食器も備え付け

9月13日、荒川地区公民館裏駐車場に建設が進められてきた建設型応急住宅が完成し、小岩内集落の33世帯に鍵の引き渡しが行われました。

この建設型応急住宅は、8月3日からの大雨による災害で住宅の被害を受けた方に対して災害救助法に基づく簡易な住宅を仮設し、一時的に居住の安定を図るために建設されたもので、新潟県が設置し、管理は市が行います。

入居期間は、県から市に引き渡しのあった日から2年とされており、この間、小岩内集落への立ち入りについては制限を設け、大沢川の砂防ダムの流木処理など、集中した災害復旧に取り組んでいくことになります。



▲2世帯で使用する場合の一例

応急住宅の住所

〒959-3134

村上市羽ヶ榎104番地25

羽ヶ榎応急仮設住宅〇〇号

行政区管轄

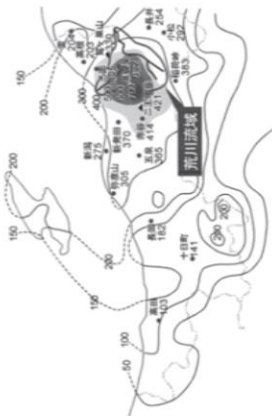
小岩内集落の皆さまが入居される羽ヶ榎応急仮設住宅は荒川地域になりますが、これまで同様、神林地域の小岩内区として神林支所が管轄いたします。



生活復旧支援政策は
こちらから

特集 あれから50年 羽越水害の記憶

■羽越水害時 総雨量分布図



■羽越水害による被害 (荒川流域)

1. 発生日 昭和42年8月28日～29日
2. 降雨原因 停滞前線
3. 流域平均雨量 約431mm/日
4. 最大流量 (推定値) 約8,000m³/s (花立地点)
5. 被害 (荒川流域内)
 - ・死者行方不明者：74人
 - ・浸水面積：5,875ha
 - ・全壊・流出家屋：1,056戸
 - ・半壊・床上浸水：8,081戸
 - ・床上浸水：1,958戸
 - ・被害金額：約222億円 (当時)

■羽越水害全体の被害 (全河川)

県名	新潟県	山形県	福島県	合計	
死亡・不明 (人)	134	8	0	142	
浸水面積 (ha)	59,257	14,147	843	74,247	
建物被害 (棟)	全壊・流失	1,235	251	1,501	
	半壊・床上浸水	15,010	11,653	131	26,794
	床上浸水	21,182	11,348	242	32,772
被害額 (億円・当時)	477.7	126.7	17.6	622.0	

出典：「昭和42年水害統計」但し死者行方不明者は「昭和59年度阿形山形河川(鹿角)～山形県土木河川課」「羽越水害(42.8.28)復旧の記録～新潟県土木課」による。



▲新築間もない家も崩壊 (旧神林村福田)



▲堤防決壊による氾濫 (旧神林村平林)

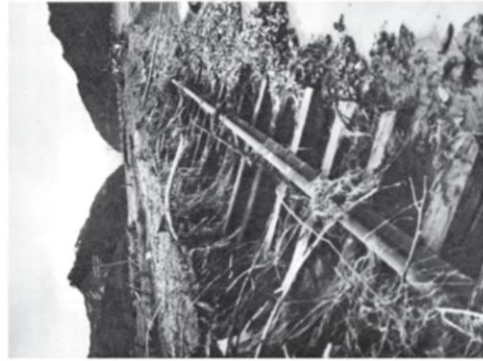
ない甚大な被害を与えました。昭和42年8月。雨は28日から降り始め、29日から29日にかけて集中豪雨が新潟県下越地方および山形県南西部を襲いました。総雨量・時間雨量のいずれにおいても記録的な豪雨となり、総雨量が700mmを超える地域もありました。河川は相次いで決壊、平野全体に大きな被害を及ぼしました。さらに豪雨は山腹斜面を崩し、土石流をもちながら里を襲った未曾有の大災害となりました。

なつたのです。水害の爪痕は想像を絶するものでした。家々はつらつら流され、橋は壊れ、道路は断絶し途断され、ライフラインはここそこ断絶。阿形湖直前の水田は、その年「大豊作まちがいなし」と言われていたにもかかわらず、土砂に埋まってしまうました。豊かな自然に包まれ、温泉も多く、近頃はもちろん関東地方から観光客や釣り客が訪れる風光明媚なこの地は、一夜にして激流にのみ込まれてしまったのです。

2017年8月号
(羽越水害50周年特集記事)



▲家屋の1階は浸水し2階へ避難 (旧神林村牧目)



▲破損した米坂橋 (旧荒川町荒島)

特集 あれから50年
羽越水害の記憶

近年は気候変動が激化しており、全国各地で多くの自然災害が起きています。先月5日に九州北部を襲った記録的豪雨は、24時間で515.5mmという観測史上最大の雨量を記録し、福岡・大分両県では、家屋の倒壊や浸水、河川の氾濫や土砂崩れなどが発生して甚大な被害をもたらしました。このたび、被害にあつた皆様にごよりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申

上げます。今回の特集では「羽越水害」を振り返り、自然の尊厳に対し私たちは、どのように対応すべきを考えます。

甚大な被害

昭和41年、42年と2年連続で水害に襲われた荒川流域。特に昭和42年8月28日に発生した水害は「羽越水害」と称され、荒川流域にたつて



▲土砂や流木で住宅や車が埋没 (旧荒川町貝附)



▲坂町駅付近 (旧荒川町坂町)

旧荒川町の被害

28日の豪雨で山間部の集落がのみ込まれた旧荒川町。洪水による荒川の破壊、荒川頭工事の損壊により、氾濫流は町内に大被害をもたらしました。特に、貝附・花立の両集落は、荒川と急な傾斜の山地に挟まれていたことから、土石流により集落全体が家屋全壊などの被害を受け、集団移転に踏み切らざるを得ない状況となりました。

また、坂町駅周辺は、あたり一帯が泥水で浸水。旧荒川町は、旧国鉄羽越線と米坂線の分岐点であり、国道7号と113号の接点という交通の要となっていたため、各方面の影響は甚大なものでした。

インタビュー



伊藤昭一さん (花立)

水害当日の8月28日、町内の

稲作の作況調査に出ていました。お昼頃にはものすごい降雨となり、空前の作柄を喜び、話し合う間もなく帰宅を急ぎました。国道113号を通過して帰る途中、荒島地域に入ると山から流れ出た水が道路を越えて流れていました。集落に居ると、村の人たちがカッパを着て心配そうに外に出ていました。

荒川が増水しても家が浸水することはないと感じていたが、集落内の土江沢の水が堰き止められ、大量の土石流が轟音とともに集落を襲いました。それがいわゆる山津波だ。この辺の人は言っています。その水が左右に流れて国道沿いの住宅は1階部分が土砂で埋まり、私の家も水が引いたあと土砂が30cm位堆積して床が全部落ちて、住める状態ではありませんでした。

災害に対する救済は早く、翌日には支援部隊が入り物資も届きました。被害を受けてどうしたらいいかわからず仕事も手につかなかつたのですが、2、3日後に被害の少なかつた旧朝日村から消防団が入り土砂を出し



▲通行不能となった国道113号 (旧荒川町春木山)

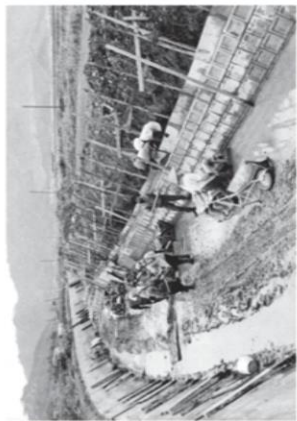
てくれて、本当に頭が下がる思いでした。私たちも気を持ち直して土砂の排出作業に入りました。

年をとっても危険な水害の記憶は忘れることができません。災害に対して個人は弱く、ほんたうと見ている以外何もできませんでしたが、全国からの支援には感謝の気持ちでいっぱいになりました。

この災害を受けて花立集落は昭和44年に全戸移転を完了しました。歴史を後世に残すため記念碑を建て、感謝と安らぎの場としていまま。



▲住民総出の後始末作業 (旧荒川町坂町駅前)



▲神納用水路橋脚拡張工事 (旧神林村川部)

復旧の日々

未曾有の災害に不安を抱えながらも人々は、復興のために立ち上がりました。荒川は仮橋補修を行い、昭和42年11月中旬には応急工事が完了し、その後改修工事が行われました。

道路は流失、決壊、埋没、冠水し、橋も流失するなど50以上の路線が交通不能となりましたが、救援活動のためにも復旧を急ぐ必要がありました。まず一車線の交通確保を目指し、不眠不休の突貫作業により、9月6日には国道113号ほか8路線を除いて、交通を確保することができました。国道113号は、国道7号との分岐点から関川村下関までが9月3日に、下関から関川村大内沢までが9月9日、大内沢から県境までは9月25日に一車線を確保することができました。

鉄道は災害の翌29日から復旧作業が始まり、羽越線は9月6日に全線開通、甚大な被害を受けた米坂線は、全線をいくつかに分けながら作業が進められ、9月20日にはもつとも利用度の

高い下関―坂町間が開通しました。

後世に語り継ぐ

この羽越水害から50年が経過し、人々の防災に関する意識が薄れてきている今日、悲劇を繰り返さないよう、後世に語り継いでいかなければなりません。

災害は必ずやってくる。考え、「自分の命は自分で守る(自助)」

「近隣住民同士の助け合い(互助)」の意識のもと、どのような行動をすればいいか確認しておきましょう。

引用

- ・羽越水害50周年 羽越水害50年記念事業 (荒川水系) 実行委員会発行
- ・洪水被害川—8—28 羽越災害の記録「荒川町発行」
- ・水害と備え—8—28 水害の記録「神林村発行」

羽越水害50年記念シンポジウム

と き 8月26日(出) 午後1時20分～4時30分
 [開場] 午後0時30分
 ところ 市民ふれあいセンター
 内容 ●講演会 (午後2時～)



- 「特別警報と気象災害への備え」
 講師 天達 武史 氏【気象予報士】
 フジテレビ系系列「情報プレゼンター とくダネ!」の天気担当として出演中
 - パネルディスカッション (午後2時50分～)
 「羽越水害の経験に学び、これからの防災を考える」
 パネリスト 羽越水害体験者や学識経験者など
- その他
 会場では午前10時～午後5時まで、絵画コンクール、フォトコンテストの展示、災害体験コーナー、災害対策車両展示、物産展、防災用品の展示販売などを行なっています。

新聞記事 『新潟日報』

① 令和4年8月5日(金) 新潟日報 社会面

濁流直撃 自宅も車も

被害甚大ぼうぜん

「元通りの生活いつ」

県北を襲った猛烈な雨に、住民は恐怖で震えた。3日から降り続いた雨は、荒川流域で4日未明のわずか1時間に約160㎜も降り注いだ。村上市神林地区の小岩内では、土石流が運んだ木が民家を押しつぶした。同市荒川地区では市街地が水のみ込まれた。関川村では孤立した集落も、住民らは命が救われたことに感謝しつつ、甚大な被害にぼうぜんとした。これからどうすればいいのか

村上・小岩内

大雨による土石流で複数が出た村上市神林地区の小岩内。集落につながる道はが骨折するほど甚大な被害。土砂がふさぎ、周辺から孤立した。



土石流で家が倒壊した男性。放心状態ですんでいた4日午後4時30分過ぎ、村上市神林地区の小岩内。(写真映像部・渡辺善行撮影)

大雨による土石流で複数が出た村上市神林地区の小岩内。集落につながる道はが骨折するほど甚大な被害。土砂がふさぎ、周辺から孤立した。

立した住民の生活は立ちゆかなくなっている。豪雨の生々しい傷痕が残る地域を歩いた。午前1時過ぎ、現場に到着すると、土石流に伴って大きくなった山の斜面が目に見え、雨は降りやみだりながら繰り返す。近々を流れる荒川は濁流が音を立てていた。二次災害の危険を避けるため、山の斜面から距離を取るようになり、周辺を歩いた。集落へたどり着く方法を探ったが、堆積する土砂や倒木をせいで通行止めとなっていた。小岩内の集落は主要道路が南北に伸びている。だが、土砂が南北の出入り口をふさぎ、車での行き来が遮断されていた。周辺に広がる田畑のあぜ道を歩いて向かう方法もあったが、午前中は用水路からあふれた泥水が行く手を阻まれた。近々の堤防の上から集落を眺め、倒壊した家屋の惨状を確認するのしかできなかった。午後2時ごろには日差しが強まり、泥水に覆われていた農道のわだが乾き始めた。長靴にまわりつく



泥を踏みしめながら田畑を越えようと、ようやく集落にたどり着いた。集落の中は、遠目で見ただけでも悲惨な被害状況だった。根こそぎ倒れた木や散乱した家具などが土砂



冠水した道路を消防のボートで避難する住民ら＝4日午前11時過ぎ、村上市荒川地区の下鍛冶屋

池のような道を避難

村上・下鍛冶屋

の豪雨で住宅や店舗が水に漬かり、道路も泥水で寸断された。消防隊のゴムボートで避難した同所の自営業、大倉

の勢いを物語っていた。電きり見た時は「もう諦める柱やカーミラーが傾き、一時地元消防団らが待機していたという集会所は基礎部分を残して建物約50が倒壊していた。集落に住む無職の松本信藏さん(76)は在宅中に土石流に巻き込まれた。4日朝全壊が2軒、半壊が4軒あったほか、床上下浸水な澤楓花) 松本区長は「元の生活に戻すまでに時間がかかるので、行政には素早い支援を求めたい」と話した。(報道部・伊藤和隆、小澤楓花)

県北豪雨 数百棟浸水

2人けが 関川・上関1時間161ミリ

下越地方を中心とする3日からの記録的な大雨は4日も続いた。新潟地方気象台によると、関川村下関で4日午前2時ごろまでの1時間に149・0ミリを観測。関川村上関に国土交通省が設置している雨量計では、午前2時までの1時間に161・0ミリの猛烈な雨を記録した。県などによると、村上市で重傷者、軽傷者が各1人出たほか、同市や関川村などで住宅が10軒以上損壊し、床上下浸水も多数出た。県は災害対策基本法に基づき自衛隊に対し、村上市への災害派遣を要請。また、村上市、胎内市、関川村に災害救助法を適用すると発表した。

村上・胎内・関川 災害救助法適用



土石流とともに木が流れ込み、埋め尽くされた集落＝4日午後5時30分前、村上市神林地区の小岩内周辺



記録的な大雨で県道や建物が冠水した市街地＝4日午前、村上市荒川地区の大津周辺（本社へりから）

気象庁は4日未明に大雨特別警報を村上市と関川村、胎内市に発表。本県での特別警報発表は2019年10月の台風19号以来2回目と、関川村下関では9日目の発生した。村上市では土石流の影響で土砂災害も発生した。村上市では土石流の影響で土砂災害も発生した。村上市では土石流の影響で土砂災害も発生した。



大雨特別警報 100棟を超えるほか、関川村で新発田市で6棟、阿賀町は調査中となっている。農林水産省では、村上市の荒川、神林地区を中心に水田の浸冠水を確認。三面川漁協の建物、ふ化場の水槽が浸水する被害も出たという。

下越地方の記録的 大雨の降水量(ミリ)	4日の1時間 間の最大値	降り始め(3日午前 3時)から4日午後 4時までの降水量	
		4日午後 4時までの 降水量	4日午後 4時までの 降水量
関川村下関	149.0	562.5	562.5
村上市高根	9.5	411.5	411.5
胎内市中条	92.0	291.5	291.5
関川村上関	161.0	634.0	634.0
村上市坂町	152.0	589.0	589.0

※関川村上関と村上市坂町は国交省、他は新潟地方気象台観測

降り始めから4日午後4時までの降水量が562・5ミリと、平年の8月1カ月分の平均雨量207・3ミリの大きく上回る雨となった。村上市高根では411・5ミリ、胎内市中条では291・5ミリを記録し表参照。気象台は、土砂災害などの発生につながる「記録的短時間大雨情報」を3日正午過ぎから4日午前5時15分までに計16回発表した。大雨の影響で土砂災害も発生した。村上市では土石流の影響で土砂災害も発生した。



被災現場を見て回る村上市の高橋邦芳市長（左から2人目）＝5日、同市小岩内

被災の小岩内を視察

市長 住民生活インフラ早く戻して

村上市の高橋邦芳市長は5日、大雨による土砂崩れで住宅が倒壊するなど大きな被害を受けた神林地区の小岩内を視察した。住民からは電気、水道など生活インフラの早期復旧を求める声が上がった。

小岩内には水や食料などの支援物資が届けられたが、停電や断水などが続き、生活に支障が出ている。視察に同行した地元区長の松本佐一さん(69)は高橋市長に、「水道や電気、道路の復旧をお願いしたい」と説明。高橋市長は「非常に厳しい現実だ。速やかに、しっかりと復旧させることが非常に重要だと心に刻みだ」と語った。

高橋市長は午前にも集落へ入り、被災した住宅などを

③ 令和4年8月6日(土) 新潟日報 下越面

県北豪雨700戸で断水 復旧めど立たず

県北地域に大きな被害を出した記録的な大雨の影響で、村上市と関川村の7163戸で断水していることが5日、分かった。被害調査が進み、4日に判明した約3500戸から倍増した。復旧の見通しは立っていない。自衛隊や自治体の給水車が出勤しているが、水を入れるポリタンクが売り切れた店もある。市民生活への影響が深刻さを増している。



村上市荒川地区にある、店は、店内が浸水して4日、前9時に開店すると、水を入れるポリタンクを求める客が次々と訪れた。約100個あった商品はあっという間に売り切れた。

5日に営業を再開した。午前9時に開店すると、水を入れるポリタンクを求める客が次々と訪れた。約100個あった商品はあっという間に売り切れた。屋敷から営業を再開したコメリ荒川店も、ポリタンクが完売。津野泰子店長(48)は「周辺店舗も含めて全くない。灯油用もなく」と話した。泥をかくき出すスコップやデッキブラシを買い求める客も多い。

断水は村上市荒川、神林の両地区を中心に続く。浸水被害を免れたものの、断水している世帯が多い。市は市内9カ所ほどに給水場を設置した。

荒川地区にある県立坂町

豪雨の影響で断水が続き、給水所を訪れる住民ら(5日、村上市荒川地区の下級治屋)

県北豪雨関連記事

温泉旅館も損壊	14面
米坂線被害大きく	32面
住民疲労の色濃く	33面

影響もあり、一部のコンビニではおにぎりやパン、水などが店頭から消えた。関川村では、5日に営業していたコンビニに「各商社が現地に入った。本格的な家屋被害調査を前に、新潟大危機管理室の田村圭子教授らが村上市と関川村で調査を行った。県による調査も5日に始まった。県でも9日以降になる。(報道部・渡辺勇哉、村上支局長・土田潤)

④ 令和4年8月6日(土) 新潟日報 政治面



県北豪雨

住宅意向調査を開始

仮設入居など生活再建動き進む

県北地域の豪雨で住宅被害を受けた村上市、関川村の被災者に対し、仮設住宅への入居など今後の住まいに関する意向調査が10日、2市村で始まった。11日からの建物被害認定調査を前に研修会も実施。実態把握や生活再建に向けた動きが進む。一方、県によると10日時点で避難所に身を寄せる人は49世帯84人になる。

浸水した住宅を回り、仮設住宅入居などの意向を聞き取る村上市職員10日、村上市荒川地区の様子

被害を受けた住宅の2階や親戚の家で生活する人も少なくない。村上市荒川地区のJ.R坂町駅周辺では市職員が床上浸水したとみられる住宅を一軒一軒訪ね歩き、今後

の意向を聞き取った。1階が膝上まで浸水したという同市藤沢の男性(74)は「リフォームを検討しているが、仮住まいが必要だ」と訴えた。村上市は仮設住宅100

県、全壊に100万円方針

独自助成 国と合わせ最大400万円

県北地域の豪雨で住居が全壊するなどした被災者に対し、国の支援制度に県が独自に最大100万円を上

乗せして助成する方針を固めたことが10日、分かった。国の制度と合わせると最大で400万円支給される見込み。県議会の9月定例会に一般会計補正予算案を提出する方向で調整を進める。

乗せして助成する方針を固めたことが10日、分かった。国の制度と合わせると最大で400万円支給される見込み。県はこれに上乗せして、全壊は100万円、半壊は50万円を支給する方針だ。

花角英世知事が同日、新潟日報社の取材に明らかにした。被災者一人一人の日常生活を取り戻すため、住まいを再建する支援をしていくと述べた。

花角知事は取材に対し「これまでの大きな災害でも県は上乗せ助成してきた。被災者一人一人の日常生活を取り戻すため、住まいを再建する支援をしていく」と述べた。

棟ほどが必要となると見込んでいる。関川村は、加藤弘村長が「まずは村営住宅や村内の空き家、民間アパートなどで対応する」と説明。8世帯が既に村営住宅などに入居している。10日からは住まいのニーズを把握するため、被害を受けた村内20集落の区長を通じて調査を始めた。大幅に希望が増えれば、村外のアパートでも対応する。また同日は、罹災証明書の発行に必要な建物被害認定調査の開始を前に、県と市町村の職員らによる「チームにいがた」が関川村民会館に集合。調査の手順などを確認した。8月下旬までに村上市約2500軒、関川村約900軒を調査する予定だ。

高橋邦芳・村上市長は「家屋調査は生活再建へとつなげていく基盤。まさに住民にとっての希望だ」と声を詰まらせながら、感謝を述べた。

関連記事 7面「県」「防災対策に一定効果」、14面「国重文の五十嵐家住宅倒壊

⑥ 令和4年8月18日(木)
新潟日報 下越面

⑦ 令和4年9月2日(金)新潟日報 下越面

村上市・関川村 罹災証明23日から発行

村上市、関川村は17日、被災者の公的支援に必要となる罹災証明書の発行を23日から順次始めると明らかにした。両市村ともに発行に合わせ、住宅支援の説明や健康などについて相談する窓口を設ける予定だ。

村上市の罹災証明書の発行は荒川支所で23～31日と9月3、4日に行う。対象は荒川、神林地区の住民。朝日、山北地区は2支所で8月25、28日に実施する。関川村では23日から村民会館で発行。地区ごとに発行日を指定し、月内に終了させる。詳細の日程はホームページで周知する。

高橋邦芳・村上市長は17日に開いた会見で「罹災証明書発行の場で、支援や税金の減免などについて、住民が目安を立てられるようにしたい」と述べた。

罹災証明書については、県や自治体職員でつくる「チームにいがた」が発行に向け、建物被害認定調査を実施。村上市で約2500棟が、関川村では約900棟が調査対象になっている。

村上市では16日現在、1694棟の調査を終了。全壊が6棟、大規模半壊が9棟、中規模半壊99棟となっている。



村上市、関川村は17日、被災者の公的支援に必要となる罹災証明書の発行を23日から順次始めると明らかにした。

豪雨による被害や復旧、支援状況について会見する高橋邦芳・村上市長。17日、同市役所

関川村では23日から村民会館で発行。地区ごとに発行日を指定し、月内に終了させる。詳細の日程はホームページで周知する。

高橋邦芳・村上市長は17日に開いた会見で「罹災証明書発行の場で、支援や税金の減免などについて、住民が目安を立てられるようにしたい」と述べた。

罹災証明書については、県や自治体職員でつくる「チームにいがた」が発行に向け、建物被害認定調査を実施。村上市で約2500棟が、関川村では約900棟が調査対象になっている。

学用品被害小中生へ支給

村上市、国に上乗せ

NPOは制服リユース

県北を襲った豪雨による浸水や土砂災害で、子どもの学用品も被害に遭った。村上市には「教科書や制服が泥まみれになった」という相談が学校を通じて寄せられ、市は床上浸水以上の被害があった世帯には制服や筆記用具などの学用品を支給している。床下浸水以下と認定された場合は対象とならないため、市内のNPO法人では、以前から行っている「制服リユース」の活用を呼びかけている。

このうち、生徒が冠水などの被害を受けた荒川中では9人が申請した。教科書や体操着、制服が泥まみれになって利用できなくなると、8月26日の始業式

県北を襲った豪雨による浸水や土砂災害で、子どもの学用品も被害に遭った。村上市には「教科書や制服が泥まみれになった」という相談が学校を通じて寄せられ、市は床上浸水以上の被害があった世帯には制服や筆記用具などの学用品を支給している。床下浸水以下と認定された場合は対象とならないため、市内のNPO法人では、以前から行っている「制服リユース」の活用を呼びかけている。

学用品被害小中生へ支給

村上市、国に上乗せ

NPOは制服リユース

県北豪雨



村上ohanaネットで譲渡しているリユース制服＝村上市塩町

このうち、生徒が冠水などの被害を受けた荒川中では9人が申請した。教科書や体操着、制服が泥まみれになって利用できなくなると、8月26日の始業式

には制服の手配が間に合った。渡辺校長は「被害状況は一人一人違う。被災した生徒の心のケアをしたい」と話していた。

一方で、床下浸水以下と認定された世帯は、学用品の支援対象にならない。村上市のNPO法人村上ohanaネットでは、村上市や関川村のリユース制服を千点ほど保管しており、必要の人に譲る活動をしている。ほかにも子ども服のリユース品もあり、渡辺ひろみ理事長は「着替えが足りない家庭はいつでも相談してほしい」と呼びかけている。

譲渡の際の協力は任意で、法人の塩町事務所引き渡す。予約が必要。問い合わせは同法人、090(2624)9026。



土石流が流れ込み、1カ月たった今も復旧作業が続く村上市神林地区の小岩内集落＝2日（本社小型無人機から）

一部集落避難が長期化

県北豪雨1カ月

県北地域に甚大な被害をもたらした豪雨災害から、3日で1カ月となった。村上市や関川村などで被災した店舗の中には、営業を再開した店もあり、復旧に向けて一歩ずつ進んでいる。ただ、土石流などで大きな被害があった村上市の一部の地域では、現在も避難指示が出ている。中でも、大規模な被害を受けた小岩内集落は、避難が長期化する可能性がある。

続く泥出し 人手不足

県によると、2日現在の被害状況は村上市、関川村をはじめ4市1町1村で住宅の全壊が8棟、半壊が20棟、床上浸水は852棟、床下浸水1467棟。村上市で55世帯、175人に避難指示が出ている。表参照。

避難指示が続いている集落は、荒川地区の貝附、花立、梨木、荒島、山北地区の笹川のいずれも一部と、神林地区小岩内の全域。市によると、各地に崩落箇所があり、さらなる雨で被害が拡大する恐れがある。

市は行政機関による緊急工事の状況や専門家の知見などを踏まえ、避難指示を順次解除している。ただ、土石流で大きな被害を受けた小岩内集落は、解除までに時間がかかると見込まれ、県が市内に応急仮設住宅を設置する。36世帯中33世帯が、今月中旬に入居する予定だ。

通行止めになった関川村と村上市を結ぶ国道113号は、全区間で通れるようになったが、片側交互通行区間が残り、夜間と降雨時は全面通行止めが続いている。

村上市、関川村には各地からボランティアが駆け付け、泥出しや家具の運び出しなどを続けている。村上市によると、8月29日現在で延べ2609人が参加した。ただ、家の中の泥を出す作業は終わっておらず、ボランティアの数が減って不足気味だという。

※9日の白現在を県や村上市の発表を基に作成

人的被害	
重傷	1人
住宅被害(全県)	
全壊	8棟
半壊	20棟
避難指示	
55世帯	175人

県北豪雨の被災状況



動画はこちら

⑧ 令和4年9月3日(土)
新潟日報 政治面

「県と連携 最大限支援する」 首相 豪雨被害の村上を視察

岸田文雄首相は4日、8月の大雨で被害が大きかった村上市を訪れ、土石流などの土砂災害に見舞われた神林地区の小岩内や、災害廃棄物の仮置き場を視察し、住民の要望を聞いた。

首相は被害の跡が生々しく残る小岩内の住宅などを訪問。住民からは「このような被害が二度と起きないよう、河川整備に加えて砂防に関してもこれまで以上に尽力してほしい」との声が上がった。



首相は「心からお見舞いを申し上げる。国としても県や地元自治体と連携しながら最大限支援していく」と声をかけた。

また、情報通信技術（ICT）を活用したスマート農業に取り組む新潟市秋葉区の農業法人「白銀カルチャー」の施設を見学した。

安倍晋三元首相の銃撃事件を受け、警察庁が「警護要則」を見直してから初めての首相の来県となり、県警は警戒態勢で警備に当たった。

村上市を訪れ、土石流などの土砂災害に見舞われた地区を視察する岸田首相（手前中央）4日（代表撮影）

銃撃事件で後方の警備に課題があったことを踏まえ、全方向に隙をつくらないようにした。小岩内では首相一行の周囲を取り囲むように警護し、高台にも監視要員を配置。新潟市秋葉区の農業法人施設の近くでは、一般の通行車両に声をかけて止め、行き先を確認するなど警戒を徹底した。

⑨ 令和4年9月5日(月)
新潟日報 2総面

見知った顔そろい心強く

県北豪雨 村上・小岩内集落が仮設入居

県北豪雨で大きな被害を受けた村上市神林地区の小岩内集落は、住民の希望で集落一体で応急仮設住宅に入居することを決めた。入居開始の13日、荷物を運び込んだ住民たちは、見知った顔がそろった環境に安堵した。ただ、集落に家を残り、不慣れで狭い仮設住宅で暮らすことに不安を抱く人もおり、「我慢するしかない」との声も漏れた。

「復興話し合いやすい」 制約ある生活に不安も

「普段から近所の人は（60）は仮設住宅の部屋を確保。行き来して行事の相談もし、認しつつ、こつ話した。避けてきた。みんながいるので、難指示が解除されれば、まそれが続けられる。このたままとまっというんなこと日、団体職員、高野清さんをやりたい」と前を見据え



建設されたばかりの仮設住宅に入り、暮らせるように準備する小岩内集落の住民たち。13日、村上市羽ヶ根

「自宅が全壊判定を受けた一人暮らしの女性（80）も小さな集落だけど、友達もたくさんいるし絆は強い。みんな一緒なのは心強い」と安心感を口にする。集落一体での仮設住宅への入居は、役員たちが中心となり話し合って決めた。副区長の松本一男さん（69）は「隣近所が顔の分かる人

国道113号の規制
月末めに解除
国土交通省新潟国道事務所は13日、県北豪雨の影響で通行規制をしている国道113号村上市春木山一関川村大島間で、9月末をめぐりに規制を全面解除すると発表した。土砂や流木を撤去する応急復旧工事が完了する見込みとなったため。現在は夜間と降雨時が全面通行止め、村上市花立一貝附間で片側交互通行となっている。

ばかり。復興に向けた話し合いも必要になっていくが、集まりやすい」とその理由を説明する。地元のコミュニティが保たれることを歓迎しつつ、新たな場での生活には不安もある。住民の多くが広い一軒家で暮らしてきたが、仮設住宅は32・2平方メートルと狭い。妻と中3、中1の娘と入居する自営業、須貝正也さん（46）は、「仕切りもない間取り。娘の受験も近いけれど、我慢してもらおうしかないのかな」と思案する。無職の高野宗次さん（70）は「帰れない時間が長くなるほど家は傷む。行き来しながらの生活になる」と語った。

⑩ 令和4年9月14日(水)
新潟日報 2社面

生活再建の足がかりに

村上・小岩内 仮設住宅へ入居 県北豪雨

8月上旬に県北地域を襲った豪雨で大きな被害を受けた村上市神林地区の小岩内集落の住民が13日、荒川区公民館駐車場に建てられた仮設住宅への入居



を始めた。集落全36世帯のうち33世帯が19日までに入居を終える予定で、地元での生活再建に向けた足がかりとする。

小岩内集落は土砂崩れで大きな被害が発生し、避難の長期化が見込まれている。県はコミュニティーの維持を重視する集落の意向を受け、コンテナ型の仮設住宅33棟を1カ所にまとめて建設。親戚宅や賃貸住宅に避難する3世帯をのぞきほぼ集落単位での移転入居となった。入居期間は原則で最長2年。

この日は32世帯が荒川地

区公民館で鍵を受け取った。住民らは、家電や家具が据え付けられた部屋の中を確認。親戚や友人に手伝ってもらい、持ち込んだ服や日用品を慌ただしく運び込む人もいた。

集落副区長の松本一男さん(69)は「今までと違う住宅に慣れるまでは大変だと思う。小岩内に帰ることを目標に頑張っていくしかない」と話した。

市は住民に19日までの移転を求めている。その後は集落への出入りにゲートを設け、村上署などが見回りを強化する。



鍵を受け取り、仮設住宅に荷物を運び込む小岩内集落の住民たち＝13日、村上市羽ヶ榎

集落は8月3、4日の豪雨で全壊、半壊以上がそれぞれ6棟と大きな被害が出た。集落上部の砂防ダムに大量の流木が堆積し、危険

県北豪雨 国道113号 規制全面解除

動脈復旧 住民ら安堵

8月の県北豪雨の影響で通行が規制されていた国道113号の村上市春木山―関川村大島間で応急復旧工事が完了し、28日朝、通行規制が全面解除になった。夜間通行止めの解除のほか、区間内の同市花立―貝附間約1・3キロの片側交互通行規制もなくなり、スムーズに車が通行していた。近隣住民らは「元の生活にまた一歩近づいた」と喜んでいた。



応急復旧工事が完了し、全ての規制が解除された国道113号 村上市

バス通学生「早く帰れる」 元の生活へ一歩



国道113号は、8月3日から4日にかけての豪雨により土砂や流木が道路上に流れ込み、一時は村上市坂町から山形県境まで通行止めとなった。その後、復旧作業が進み、村上市から関川村の間、約5・9キロが夜間（午後7時～翌朝午前6時）や降雨時に通行止めとなっていた。

国土交通省新潟国道事務所によると、土砂や流木を撤去し、防護柵やガードワイヤの流出した場所の復旧を行った。片側交互通行規制区間には六つの沢があり、大量の土砂や流木が堆積。夜間の工事も行って復旧を急いだ。道路脇に土のうを積みむなどして、安全に通行できるようになった。

一方、道路沿いの山肌がむき出しになっている場所もあり、管理する自治体やJRなどの調整の上、本復旧を進める方針。また、大雨の際は再び通行止めをする可能性がある。

住民や観光客らは規制解除を喜んだ。関川村在住の中条高1年、五十嵐優斗さん(15)は午後7時過ぎに村が運行するバスで帰宅していたが、夜間通行止めのためバスは胎内市を通って迂回していた。「部活が終わった後に早く帰りたいと思っていた」とほっとした様子だった。

観光の途中で関川村に立ち寄った、山形県米沢市の伊藤英雄さん(76)は「瀬波温泉に向かうところだ。規制がなくなったタイミングに來られてよかった」と話した。

これまで夜間通行止めや混雑の影響で、物流トラックなどは国道290号を使って遠回りをしてきた。関川郵便局（関川村）との間で郵便物や荷物を運送している中条郵便局（胎内市）の担当者は「解除されるまでもう少し時間がかかると思うが、こんなに早く規制が解除されたことに驚いている。コメの発送が増える時期を控え、平常通りの業務が行えることに安堵している」と話している。

国土交通省新潟国道事務所によると、土砂や流木を撤去し、防護柵やガードワイヤの流出した場所の復旧を行った。片側交互通行規制区間には六つの沢があり、大量の土砂や流木が堆積。夜間の工事も行って復旧を急いだ。道路脇に土のうを積みむなどして、安全に通行できるようになった。

⑫ 令和4年9月29日(木)
新潟日報 下越面

県北豪雨

村上・関川 両ボランティアセンター閉鎖 延べ7300人復旧応援

8月の県北豪雨を受けて設置された村上市、関川村の災害ボランティアセンター（VC）が30日、それぞれ閉鎖された。2市村合わせて延べ7346人のボランティアが復旧作業に当たり、被災した住民の力になった。10月からは両市村ともに組織を改編。ボランティア登録制に切り替え、被災者の生活再建を支援していく。

住民感謝「心の支えに」

今月から 組織改め支援継続

VCは2市村の社会福祉協議会が運営し、村上市では8月7日から、関川村は同8日から、ボランティアを派遣した。泥のかき出しや壊れた家具の運び出し、泥の入り込んだ床を剥がすなどの作業に従事した。村上市では住民から41件の依頼があり、延べ4107人が参加。関川村では266件の依頼に対し、30日の記者会見で「それぞ



被災した住宅の後片付けに汗を流すボランティア。復旧に向けて大きな力になった。8月8日、関川村高田

れに連携して、スムーズに対応してくれた。ボランティアの力が市民の元気につながった」と感謝。関川村社協の担当者は「心の支えになった」などの住民の声を紹介しつつ「大勢の力で関川村は確実に復興への道を歩むことができた」と振り返る。

1日からはVCに代わり、村上市は荒川支所内に「むらかみ見守り支援センター」、関川村は村社協（上関）に「村地域ささえあいセンター」を設置する。いずれも社協が被災者の見守り役を担い、引き続き個別のニーズを把握。必要に応じて事前登録を済ませたボランティアを派遣する。

ボランティアの登録、被災者の作業依頼の連絡先は、村上市が090（7465）1402、関川村が0254（64）0111。

⑬ 令和4年10月1日(土)新潟日報 下越面

県北豪雨、激甚災害に指定

政府は30日、本県の県北地域をはじめ東北や北陸などで大きな被害が出た8月1日から22日の大雨を激甚災害に指定すると閣議決定した。公共施設や農地などの復旧事業に対する国の補

助率を1割程度引き上げ、被災自治体を支援する。具体的には、道路、河川、下水道といった土木施設に加えて、公立学校、福祉施設、農地、水路、林道などの復旧に幅広く適用する。

このほか、農地にたまった水を取り除く土地改良区の事業で、10分の9を国庫補助。通常は補助のない私立学校や公民館などの復旧

経費も支援する。消毒などの感染症予防事業は、市町村の財政負担をなくす。総務省消防庁の9月4日時点の被害まとめでは、死者2人、行方不明者1人。最上川(山形)、米代川(秋田)、梯川(石川)などが氾濫し、住宅被害は全国で約6900棟に上った。農作物にも大きな被害が出た。激甚災害は、インフラや

農業施設などの被害額が一定基準を超えた場合に政府が指定する。政府が県北豪雨を激甚災害に指定したことについて、花角英世知事は30日、新潟日報社の取材に「復旧事業ごとに適用されるかどうかは精査してみないと分からないが、全体に支援制度の傘がかかったこと自体は大変ありがたい」と話した。

⑭ 令和4年10月1日(土)
新潟日報 2 総面

水害リスク減らす復旧を

県北豪雨 荒川流域、首長ら要望

8月の県北豪雨で大きな被害を受けた荒川流域の治水について、関係機関で検討する協議会が3日、村上市内で開かれた「写真Ⅱ」。再びの豪雨に備えるため、首長からは「原状復旧にこだわらず、拡充させリスクを減らしてほしい」と要望が上がった。

協議会は村上、関川、胎内の3市村や国、県の出先機関、電力事業者など16団体



で構成。県北豪雨では、村上や関川村の中小河川が越水するなど、大きな被害が出た。今後、豪雨が発生した際の河川対策について協議するために開催した。首長は原則、原状回復とする災害復旧の在り方を疑問視。高橋邦芳・村上市長は「将来のリスクを低減する形での災害復旧であるべきだ」と提言。加藤弘・関川村長も常に同じ場所が被災を受けている状況を指摘した上で、「国費の無駄遣いにつながる。われわれサイドに立った支援をお願いしたい」と述べた。

井畑明彦・胎内市長は「周辺の環境整備を平時から知っておいてもらいたい」と求めた。また、各団体の担当者が豪雨による被害の概要を説明。国土交通省の担当者が荒川流域での治水対策や昨年成立した流域治水関連法などについて解説した。会議後、事務局を務める羽越河川国道事務所の澤山雅則所長は「復旧と強化を同時に進める。改良復旧という考えもある。地元には丁寧に説明してきた」と述べ、具体的な対策の決定については「早めに検討して結果を出せるように努めたい」と話した。

生活関連情報

ボランティア

【村上】むらかみ見守り支援センター(市役所荒川支所)。ボランティア希望者は事前登録が必要。090(7465)1402。
【関川村】関川村地域ささえあいセンター(村社会福祉協議会)。ボランティア希望者は事前登録が必要。0254(64)0111。

義援金

【県】日本赤十字社県支部、県共同募金会。2023年3月31日まで、銀行口座の振り込みか、県HPからキャッシュレス決済で受け付ける。
口座名と金融機関、口座番号は次の通り。
口座名「新潟県災害対策本部」 第四北越銀行県庁支店、普通5018565
▲大光銀行新潟支店、普通3559692
▲県信連本店、普通0031160
▲ゆうちょ銀行、0011014169764
9
口座名「日本赤十字社新潟県支部」 第四北越銀行白山支店、普通5050155
口座名「社会福祉法人新潟県共同募金会」 第四北越銀行白山支店、普通1590791
▲大光銀行新潟支店、普

通3043002
口座名「新潟県共同募金会」
令和4年8月大雨災害義援金
ゆうちょ銀行、001801
41605183

⑮ 令和4年10月4日(火)
新潟日報 下越面

⑩ 令和4年10月18日(火)
新潟日報 下越面

全避難所を閉鎖

県北豪雨で村上市長

村上市の高橋邦芳市長は17日の記者会見で、県北豪雨の被災者を対象に同市の荒川地区公民館で開設していた避難所を同日、閉鎖したと発表した。残っていた避難者の自宅の応急修理が完了し、2世帯3人が退去したため、これで市内の

避難所は全て閉鎖した。

8月の豪雨災害発生後、市内では最大16カ所の避難所を開設していた。高橋市長は「一歩前に進んだ。しかしまだ元通りになっていない人もいるので生活再建に向け支援したい」と述べた。

現在、市内では神林地区の小岩内で36世帯127人、荒川地区の貝附、梨木、

⑪ 令和4年10月29日(土)
新潟日報 下越面

避難指示解除へ助言

県北豪雨 新潟大、村上市と協定

8月の県北豪雨で被害を受けた村上市と新潟大学災害・復興科学研究所は28日、災害対策に関する連携協定を締結した。市は避難指示の解除や防災のまちづくりに関して助言を受け、11月には避難指示が続く神林、荒川地区の3集落

を合同で調査する。市役所で行われた締結式では、高橋邦芳市長と同研究所長のト部厚志教授らが出席。ト部教授は「われわれが窓口となり、大学のリソースを活用してもらいたい」とあいさつした。

11月には国、県の関係機関も加わり、合同で避難指示の対象地域を調査。特に全36世帯が避難を続ける小岩内では、6本ある沢の状況を確認する。同研究所が調査結果を高橋市長に報告し、市は避難指示解除の判断材料とする。小岩内についても、部分的に解除でき

るかを検討する。

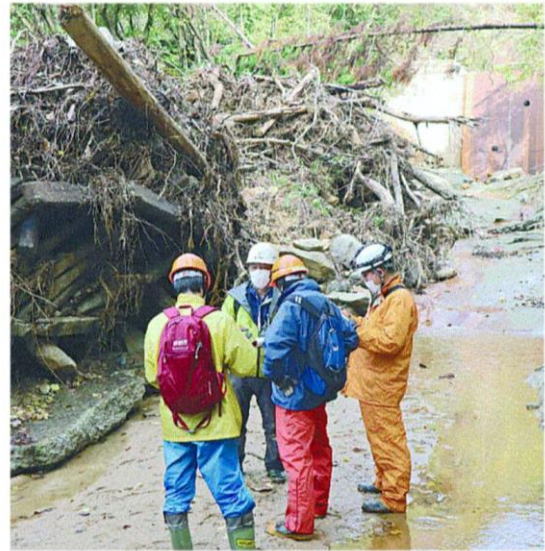
ト部教授はこれまでも市内の被災地域を視察。28日に避難指示が解除された山北地区笹川の2世帯については、雨量計の設置を助言するなどしていた。写真＝連携協定を結んだト部厚志教授(右から2人目)と高橋邦芳村上市長(右) 28日、村上市役所



豪雨北 村上・避難指示続く3集落 新大教授ら現地調査

村上市と災害対策に関する連携協定を結んでいる新潟大学災害・復興科学研究所が7日、豪雨北による被害で避難指示の続く市内3集落の現地調査を行った。同研究所は今月下旬に高橋邦芳市長に調査結果を報告し、市は避難指示解除の判断材料の一つとする考えだ。

調査には同研究所長のト部厚志教授のほか、市や国、県の担当者が参加。全36世帯に避難指示が発令されている神林地区の小岩内集落と、荒川地区の荒島と貝附の2集落を回った。小岩内集落では、6本の沢をさかのほり、航空写真



を手に地形や流木などの状況を確認。行政の担当者がト部教授に工事の計画などを説明した。復旧が手つか

新大や行政の担当者＝7日、村上小岩内

ずで、壊れた流路のコンクリートや流木が川沿いに転がっている場所もあった。ト部教授は「復旧は進んだが、(水害が起きた)8月4日当時のままの場所もある。調査結果を精査し、行政担当者に伝えていきたい」と話した。

市と研究所は10月28日に災害に関する情報、知見の相互活用などを盛り込んだ協定を締結していた。

⑬ 令和4年11月8日(火)
新潟日報 2社面

豪雨北 村上市が本部を設置 復興計画策定へ

村上市は1日、8月の豪雨を受け、高橋邦芳市長を本部長とする村上市災害復興本部を設置した。早ければ年度内にも被災者や事業者の支援、インフラの本復旧などを盛り込んだ災害復興計画を策定する。市は、豪雨以降に設置し

た災害対策本部は解散せず、復興本部と並行して、復旧・復興に当たる。市が同日示した復旧・復興タイムラインでは、本年度から2024年度までを「復旧期」と位置づけ、インフラ整備などの本格復旧を目指す。復旧状況を見据えながら柔軟に「復興期」を設定し、住民の持ち家の再建、公営住宅の入居などを支援する。

高橋市長は会見で「26年度までには、何とか『復興を遂げたね』という状況にしたい」と述べた。

また、高橋市長は、避難指示が継続中の小岩内集落33世帯が生活する応急仮設住宅の周辺に、11月中旬にも集会所を設けると明らかにした。

⑭ 令和4年11月2日(水)
新潟日報 下越面

小岩内の沢 応急工事必要

被災集落の調査結果

新潟大、村上市長に報告

県北豪雨

村上市と災害対策に関する連携協定を結んでいる新潟大学災害・復興科学研究所は22日、8月の県北豪雨

で被災した集落の調査結果を高橋邦芳市長に報告した。所長のト部厚志教授は、小岩内集落の避難指示解除

に向けて、6本あるすべての沢で応急工事が必要との認識を示した。市と同研究所は10月に災



調査の報告書を提出する新潟大学災害・復興科学研究所のト部厚志所長（右）＝22日、村上市役所

害連携協定を締結。研究所は今年7日、避難指示が続いていた市内3集落を調査した。市は報告に先行して、研究所の助言を基に18日に荒島、貝附の一部の避難指示を解除した。報告は市役所で非公開で

行われた。市によると、避難指示が続く小岩内集落にある6本の沢についての現状を報告。被災当時のままの沢もあり、工事の手法についても助言した。市は、今後も研究所に緊急工事終

了などに合わせ、調査をしてもらう考えだ。ト部教授は報告の後、「復興まで長期的な視点が必要だ。大学として本復旧、復興までできる限り助言していきたい」と話した。

② 令和4年11月23日(水)
新潟日報 下越面

県、治水対策で新手法

県北豪雨被害の荒川水系

二線堤、輪中堤を整備

8月の豪雨を受け、県が村上市荒川地区を流れる荒川水系の春木山大沢川沿いに、堤防を越えた水を集落の手前で受け止める「二線堤」と特定地域を囲む「輪中堤」を県内で初めて整備する方針であることが30日、分かった。従来の想定を上回る豪雨が頻発する中、新たな手法で被害の軽減を目指す。

同日、村上市で開かれた「合流流域協議会」で、県が荒川整備計画の変更を話し案として示した。



上流から見てJR坂町駅周辺市街地の手前となる田園地帯に南北計約1・5キロ、高さ最大約2層の二線堤を造るほか、春木山の集落を守る二線堤と同所の寺院を囲む輪中堤を整備する。二地図、イメージ図参照。国や県によると、盛り土をした道路などに二線堤としての機能を持たせたゲートはあるが、治水のために二線堤を一から整備するのは全国でも珍しい。



県北豪雨では、春木山大沢川などがあふれて坂町駅周辺で大きな浸水被害が出

た。荒川流域の平均雨量は8月3、4日の2日間で564ミリと「400年に1回」の確率で発生する量に達した。県は同程度の雨に従来のハード整備のみで対応するのは現実的でないとして、素案では、河道拡幅などの規模は「15年に1回の確率の降雨ではん藍被

害を解消する程度にとどめ、これを超える雨量に対しては二線堤、輪中堤で被害の軽減を図るとした。県は来年1月に素案に対する住民説明会を予定。2回目の協議会や国の認可を経て、同3月の整備計画決定を目指す。計画を基に実際の整備が進められる」と話した。

豪雨規模拡大 苦肉の策

【解説】 県が治水に二線堤の整備を含む新たな手法を取り入れる方針を示した背景には、近年の豪雨の規模が、これまでの河川整備の想定から大きくかけ離れている実態がある。村上市の荒川の支流では1997年に起きた洪水を受け、15年に1回の確率の雨に対する被害の解消を目指す。だが8月の豪雨は「400年に1回」の規模で桁違いだ。河道の拡幅や川に面した堤防の強化といった従来の手法のみで同規模の雨に対応しようとするれば、多大な費用がかかり、再建上の県財政への影響は大きい。二線堤、輪中堤の整備方針は、被害を軽減するため県が模索した苦肉の策といえる。協議会の会長に選任された大熊孝新潟大名誉教授（河川工学）は取材に対し、「河道内だけで議論せず、流域にまで対策を広げている画期的な案だ。流域治水の具体事例として全国のモデルの一つになっっていくのではないかと期待している」と話した。

豪雨は全国的に発生しており、国は川の外を含めた流域全体で治水対策をする「流域治水」を進めている。県の新手法はこの方向に沿っており、国土交通省の例は増えるだろうと話す。ただ、二線堤が水を受け止めれば手前の農地は浸水する。30日の協議会では、地元の委員が県の担当者に排水対策をたずねる場面もあった。専門家が「画期的」と評する今回の新手法は、堤防の越水や破堤を完全に防ぐのではなく、一定程度の洪水被害の発生はやむを得ないとの発想の上になり立つ。モデルケースとなるためには、住民などに理解を得る努力が欠かせない。

⑫ 令和4年 12月1日(木)
新潟日報 政治面

市 県北豪雨被災農地・農業施設 費用負担を減免

村上市は8月の県北豪雨で被害を受けた農地、農業用施設の費用負担について、軽減措置を行う。国や県の補助金を受けられない市単独事業に適用する。農家の分担金は、ため池や水路などの農業用施設の場合、事業費の5%としていたが徴収しない。農地は7%から1%に引き下げらる。

市によると、基本的には復旧事業費が40万円以上となる場合に国や県からの補助が認められる。ただ、農業用施設と農地のうち、国の補助対象と認められた事業は178件にとどまった。一方、市単独事業は農地約280カ所、施設約520カ所に上る見通しだ。市内の土地改良区や市議会などは、負担額が100万円を超える農業法人もあり、農家の負担が高額になる恐れがあるとして、市に軽減措置を求めてきた。

軽減措置により分担金が減ること、市の歳入は1億円程度減り、665万円となる見込みだ。

農業用水利施設を管理する荒川沿岸土地改良区の小川蔵理事長は「米価が下がる中、自宅も農業機械も被害を受けた農家も多い。財政は厳しい中、農業が大切と判断してもらえた」と話した。

② 令和5年1月24日(火)新潟日報 下越面

河川整備住民が質問

県北豪雨 村上・荒川地区で説明会

昨年8月の県北豪雨を受けて県が村上市荒川地区で進める河川整備計画に関する説明会が、同市坂町の荒川総合体育館で開かれた。住民30人が出席し、整備による下流部への影響に対する質問や、堤防の強化などの要望が上がった。



県が荒川支川の整備計画の概要を伝えた住民説明会。村上市坂町

どを囲む「輪中堤」を整備する。

説明会は1月29日に2回開かれた。県の二線堤、輪中堤の整備のほか、春木山大沢川と、合流する烏川の河道拡幅、護岸整備についても示した。

住民からは「(烏川は)下流が狭いので、上流が流れるようになるとあふれるのではないか」との質問があった。県側は「二線堤により下流へも流れにくくなる」などと答えた。

県は、荒川地区で甚大な被害が出たことを受け、河川整備計画の変更案を昨年11月に示していた。荒川水系の春木山大沢川沿いに堤防を越えた水を集落手前で受け止める「二線堤」を設置する。場所は春木山集落や保内小周辺を想定している。春木山集落の寺院など

参加した同市坂町の会社員、飯田和人さん(59)は「新たにできる堤防は、子どもたちが自然に触れ合えるようなものにしてほしい」と要望した。

③ 令和5年2月2日(木)新潟日報 下越面

県北豪雨、村上・小岩内集落 避難指示 今春解除へ

昨年8月の県北豪雨で大
きな被害を受けた、村上
市神林地区の小岩内集落の避
難指示について、市が今春
の解除を目指していること
が4日、分かった。市は3
月末までの応急復旧工事完
了を目指し、安全が確認で
きれば避難指示を解除す
る。

村上市で同日行われた住



小岩内集落の避難指示解
除の時期が明らかになっ
た住民説明会＝4日、村
上市羽ヶ榎

民説明会で明らかにした。
県北豪雨では、集落を流れ
る小岩内大沢川周辺の住宅
が倒壊し、集落全36世帯に

避難指示が出された。この
うち、33世帯が同市羽ヶ榎
の応急仮設住宅で過ごす。

説明会は冒頭を除き非公
開で行われた。市の担当者
が3月末までに予定してい
る沢の土砂・流木の撤去な
どの応急工事を説明。協
定を結ぶ新潟大学災害・復

興科学研究所に安全性を確
認してもらう考えを示し
た。

具体的な避難指示解除の
日程は、今後の降雪や雪解
けの状況で復旧工事の
進捗や安全確認がずれ込
むとして、示さなかった。
被災により住宅を取り壊

した6世帯については、避
難指示解除後も仮設住宅に
入居できる。

松本一男区長(69)は「解
除のめどがたったことは安
心したが災害への不安は残
る。本復旧ではさらに安全
性を高めるようにお願いし
たい」と話した。

⑭ 令和5年2月5日(日)新潟日報 2社面

地元「復旧が前提」

米坂線存廃議論に警戒感

JR試算

費用86億円、工事期間5年。JR東日本は25日、米坂線の復旧試算を公表したが、主体的な復旧方針は示されなかった。昨年8月の東北豪雨で被災した沿線の関係者からは、あらかじめ早期復旧を求める切実な声が上がった。

JRは連休明けにも復旧の加藤弘村長は「国は復旧に向けた協議を沿線自治体と赤字の議論は別だとして始める考えだが、関川村は、存続の議論について

は全く聞いていない」とし、なる可能性もあるが「村道あくまで復旧が前提だとすなどの復旧も進んでおらる。村の財政負担が議論にす、求められても応じるこ

新潟支社長 復旧のみの議論否定

「あらゆる可能性を否定し、復旧を沿線自治体との協議の入り口としながらも、路線の将来像や自治体との協議内容について最後まで明言を避けた。小川支社長は災害復旧が協議の出発点になるとした上で「復旧のみを議論するつもりはない。前提を持たず、地域の意見を伺いたい」と述べ、沿線地域との協議



JR坂町駅で電車から米坂線代行バスに乗り継ぐ利用者

米坂線の復旧費について会見で説明するJR東日本の小川治彦新潟支社長(25日、新潟市中央区)

とは難しい」と語った。村上市の高橋邦芳市長もJRとの協議について「全く聞いていない」とし、「存廃の議論の前に復旧だと考えている」と強調した。県交通政策局の太田勇二局長は「1日も早く復旧したい」と語った。JR東日本と話聞いた上で対応を検討していくとした。沿線の観光関係者は、今後予定される協議を注視する。「米坂線がなくなれば、特急が坂町駅に止まらなくなるだろう。地元には深刻な問題だ。関川村の温泉旅館「高橋屋観山荘」の高橋俊秀(49)は、そうした点も踏まえた協議を望む。村上市観光協会の土谷孔秀(56)は「米坂線そのものが観光コンテンツになるのが重要だ」と語り、自治体やJRへの働きかけを続けたいとした。坂町と越後下関の間で代行バスを利用している高校3年、渡邊椿樹さん(17)は「高校卒業後も通学で利用する予定なので、少しでも早く復旧してほしい」と願う。一方で、高校1年の新野海斗さん(15)は「米坂線があった方がありがたいが、利用者は少ない。多額のお金をかけてまで直した方がいいのかどうかは難しい」と複雑な表情で話した。

25 令和5年4月26日(水)新潟日報 社会面

米坂線復旧 5年86億円

JR東試算 着工時期示さず

昨夏豪雨で被災

昨年8月に東北地域などを襲った豪雨で被災し、運休が続くJR米坂線について、JR東日本新潟支社は25日、復旧に約86億円の工事費と約5年の工期を要するとの試算を発表した。復旧を「議論の出発点」とする一方で着工時期などは示さず、5月以降、沿線自治体と米坂線の在り方を協議していく考えを示した。



は、われわれが単独で復旧を判断するには大きすぎる」と言及。自治体などに説明をしていく中で、「何らかの協力をお願いすることがあるかもしれない」と、費用負担について協議していく考えを示唆した。

JR東によると米坂線は2021年度、約19億3300万円の赤字を計上。国は経営難の地方鉄道の存廃

本県側31億円 「自治体と協議」

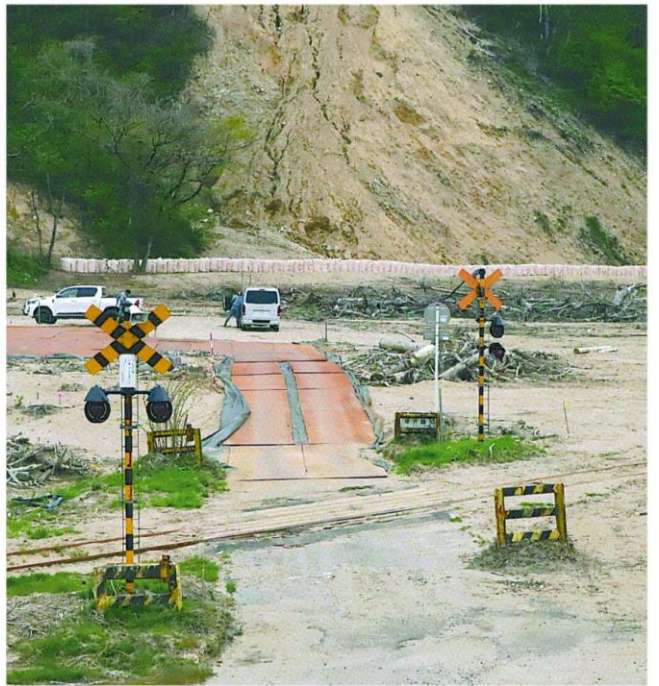
同支社によると、坂町(村上市)から米沢(山形県)までを結ぶ米坂線は、鉄橋の崩落や線路への土砂の流入などで112カ所が被災。全線再開のめどは立っておらず、運休する坂町-今泉(山形県)間で代替輸送バスを運行している。

同支社は25日の記者会見で、復旧にかかる工事費などの試算結果を公表。86億円の内訳は土木構造物に50億円、線路に14億円、崩落した小白川橋梁に16億円などとした。県内の区間分

会見で小川治彦支社長は「地元から強い復旧の要望がある。今回はあくまで災害復旧を議論の出発点にする」と説明し、大型運休明けにも沿線自治体への説明を始める方針を示した。

一方で「86億円という額

②⑥ 令和5年4月26日(水)
新潟日報 政治面



昨年8月の豪雨で被災した米坂線。土砂に埋まった線路は掘り出されたが、周辺には流木などが残されたままだ=25日、関川村土沢

について、自治体と鉄道事業者に議論を促している。

川支社長は「前提を置いたと述べるにとどめた。廃線の可能性について小議論はするべきではない」

被害水田 9割で作付け

県北豪雨、復旧工事進む

県は6日、昨年8月の県北豪雨による被害で復旧工事が必要となった水田211万1千980畝のうち、約9割に当たる198万9千800畝で今春、稲の作付けができたことを明らかにした。作付けできなかった13万1千180畝は、2024年産までの復旧を目指す。

県北豪雨では村上市、関川村、胎内市を中心に15万4千500畝の農地が土砂に埋まるなどの被害を受けた。このうち被害が大きかった8万6千400畝、21万1千100畝で復旧工事が必要となった。市町村が県と連携し、土砂の撤去など工事を進めた。村上市小岩内、川部集落では約64万畝の農地に約10万立方メートルの土砂が堆積したが、2月以降の降雪が少なめ、2月以降の降雪が少なめで工事が想定より早く進んだこともあり、6月末までに復旧がほぼ完了した。

また農業水利施設と農道の計8万9千100畝も被害を受けたが、全てで通水や通行が可能になった。今春に作付けできなかった村上市と関川村の約13万畝は、付近の堤防などの復旧を待つて工事に入る。県が県議会6月定例会の常任委員会で説明した。残る農地の復旧見直しについて、風間十二朗・農地建設課長は「農家が生産意欲を失うことなく営農を継続できるように、24年度の作付けに向けて取り組んでいく」と話した。

⑲ 令和5年7月7日(金)
新潟日報 社会面

唯一避難指示継続中の村上・小岩内

県北豪雨で土石流に襲われ、現在も被災地で唯一避難指示が継続している村上市小岩内集落の住民が30日、復興に向けた要望や意見を取りまとめるワークショップを開いた。

会場の同市荒川地区公民館には、避難中の集落36世帯の内、ほとんどの世帯の32人が参加。市職員も加わり、地元NPO法人のスタッフらが進行役を務めた。

集落内の沢の流路変更や治水のための護岸擁壁整備など、これまで個別に挙げられていた要望を共有した上で、「公園や農園の整備は管理面など将来負担も考慮すべき」「サル対策もあり、平場にみんなで使える畑がほしい」など、意見を交わし合った。

復興へ住民ら意見交換

松本一男区長(70)は「集落の安全性を高めるための要望がいっぱい出て、いい意見交換ができた。課題が整理された」と話した。

ワークショップは9月にも行い、行政側とともに復興計画を練り上げていく。



復興へ向け意見を交わし合った小岩内集落のワークショップ=30日、村上市荒川地区公民館

⑳ 令和5年8月1日(金)新潟日報 下越面

米坂線 JRが復旧検討

自治体と初会合 費用負担を協議

新潟、山形の両県をつなぎ、昨年8月の県北豪雨で被災して連休が続くJR米坂線について、JR東日本新潟支社は8日、両県や七つの沿線自治体と復旧の課題を議論する「復旧検討会議」の初会合を山形県小国町で開いた。同新潟支社の幹部は「復旧に向けて検討していきたい」と表明。ただ、約86億円に上る復旧費用の負担方法と、利用者減対策の二つの課題解消が前提だとし、自治体側と協議を続けるとした。

「利用者減対策も前提」

JR側が米坂線の復旧検討を明言したのは初めて。

終了後の取材に、同新潟支社の三島大輔企画総務部長は「災害を機に復旧以外の選択肢をただちに考えるのではなく、まずは復旧に



会議は同新潟支社や自治体の幹部、担当者が出席。冒頭以外は非公開で、出席者らによると、JRは復旧に費用面と利用者の減少という二つの課題があると指摘。法律に基づいた国の災害復旧補助制度に当てはめた場合、山形県側を含めた地元自治体の負担額は約21億5千万円から約28億7千万円になるとの試算を示した。

一方、自治体側からは早期復旧の要望が相次いだ。国の支援の拡充を求める声や、官民が連携した利用促進

進に理解を示す意見もあったという。

自治体間に温度差も 実現へハードル高く

県北豪雨に見舞われ連休したまま1年以上、膠着状態だったJR米坂線は、ようやく復旧に向けた検討が本格的に始まった。JR東日本新潟支社が課題として挙げたのは86億円という多額の工事費と、深刻な利用者の減少だ。今後、関係自治体は地元

の費用負担や路線活性化策と地元自治体が4分の1ずつ負担することになり、新潟分の負担は約7億7500万円となる。

またJRは今回、「二つの例」(広報担当者)として、鉄道施設を自治体が保有する「上下分離方式」

に向けて全力で検討したい」と述べた。新潟県の太田勇二交通政策局長は「早急に出口を見つけられるよう努力する」と話し、関川村の角幸治副村長は「まずはスタートしたのだから、話合

って復旧につなげたい」とした。米坂線は、豪雨の被害で坂町(村上市)・今泉(山形県)間が不通となり、バスの代替輸送運行が続いている。被災前から利用客は減少傾向にあり、2021年度は年間19億3300万円の赤字だった。

で復旧した場合を想定した負担割合も提示した。国と地方自治体、事業者がそれぞれ3分の1ずつ出合うことになり、新潟の負担分はさらに増えて約10億3500万円になるという。地元負担については自治体でも意見が分かれる。会議に出席した県交通政策局長の太田勇二局長は「今回のような大規模災害の費用は事業者のみではなかなか難しい」と話す。一方、関川村の角幸治副村長は会議後「こちらは災害で被災した村でJRは国営企業。地元負担は考えられない」と席上で主張したことを明かした。県は国にさらなる支援拡充を求めているが、具体的な動きはまだ見えていない。山形県側も含めると利害関係者が多く、難しい調整を強いられる

「一つ一つの課題」を解決していくことがセットになる」とも強調した。

⑨ 令和5年9月9日(土)新潟日報 社会面

県北豪雨避難指示全て解除

村上・小岩内 1年2カ月ぶり

昨年8月の県北豪雨で甚大な被害を受けた村上市小岩内集落の避難指示が1日、およそ1年2カ月ぶりに解除された。県北豪雨による避難指示は全て解消された。集落では、自宅に戻る支度を進める住民の姿が見られた一方、今後の台風などによる大雨への不安の声も聞かれた。

小岩内集落では、土石流・土砂災害の恐れがあると、全36世帯への避難指示で住宅7棟が全半壊となる。さらに、33世帯が、4日ほど離れた同市羽ヶ塚の応急仮設住宅に身を寄せていた。市は10月末までの引越しを求めている。

避難指示が解除された午前9時、集落入り口の路上などに設置されていた立ち入り制限の看板を、市職員が撤去。住民は自宅の掃除や荷物を運び入れる作業に追われた。住民は「これまで、確認などのため昼間に自宅へ戻ることができたが、本格的に元の生活に戻ることになる。2日に引越しを終えるという無職松本定男さん(66)は「仮設は狭いし、やることもなかった。これで夜も自宅に帰れるし「安心だ」と喜んだ。



仮設住宅で使っていた荷物を自宅に運び入れる住民＝1日、村上市小岩内



県や市による復旧工事は終わったが、砂防ダムのかさ上げなどは継続中で、不安を感じている人も。農業高野康弘さん(46)は「まだ台風が発生するし秋雨もある。10月末までは仮設に寝泊まりできるようにしておくと話した。

県北豪雨は2022年8月3日から4日にかけて発生。関川村上関で1時間当たりの降水量が161・0リットルなど記録的な大雨となった。県によると、けが人は村上市で重傷1人。住宅は村上市、関川村など4市1町1村で全壊8棟、半壊23棟のほか床上浸水などで計約2400棟に被害が出た。

③ 令和5年10月2日(月)新潟日報 政治面

資料

避難行動に関するアンケート調査結果

(令和5年3月 新潟県実施 11月公表)

令和4年8月豪雨における 避難行動について

～避難行動に関するアンケート調査結果～

令和5年11月 新潟県防災局防災企画課

1 令和4年8月3日からの大雨災害の概況

(1) 気象の状況、人的・建物被害の状況

1 気象の状況

○顕著な大雨に関する新潟県気象情報（線状降水帯発生）

8月3日～4日 3回発表

○特別警報（大雨（警戒レベル5相当情報））

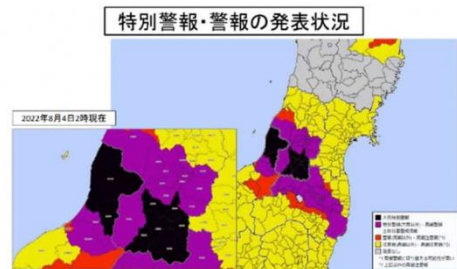
- ① 村上市 8月4日 1時56分発表 ⇒ 9時30分警報に切り替え
 ② 関川村 // 1時56分発表 ⇒ 11時30分警報に切り替え
 ③ 胎内市 // 4時05分発表 ⇒ 11時30分警報に切り替え

○新潟県記録的短時間大雨情報

8月3日～4日 16回発表

○土砂災害警戒情報（警戒レベル4相当情報）

8月3日～4日 10回発表



図出典：気象庁

2 人的・建物被害の状況

	人的被害（人）						住宅被害（棟）					非住宅被害（半壊以上）（棟）		
	計	死者	行方不明者	重傷者	軽傷者	程度不明	計	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	公共建物	その他
県全体	1	0	0	1	0	0	2,431	8	23	5	889	1,506	1	0
市町村別														
新潟市	0						125				19	106		
新発田市	0						46				2	44		
村上市	1			1			1,682	6	13	5	679	979		
胎内市	0						102				16	86		
阿賀町	0						1					1	1	
関川村	0						475	2	10		173	290		

○人的被害の状況

村上市 80代 男性 土砂災害による右足骨折（重傷）

※被害状況は、消防庁の火災・災害等即報要領により集計しています。
アンケートの住家の被害状況（問5）とは一致しません。



1 令和4年8月3日からの大雨災害の概況

(2)避難所の開設状況

① 村上市

- 8月3～4日に、全域で**最大13カ所**の避難所を開設。
- 8月4日に市内全域で一時最大**1,537名**が避難。
1か所あたり300人近くが避難する施設もあり、
定員に達するおそれがある施設は**近隣の避難所へ誘導**。
- 感染症対策のため**避難スペースの間隔を空けた**ため、
体育館だけでは足りずに**教室を開放した施設もあった**。
- 避難指示の長期化と浸水被害の広域化により、最長
2か月以上にわたり避難所を開設した。

<避難所の様子（村上市提供）>



② 関川村

- 8月3～4日に全域で最大**4カ所**の避難所を開設、
一次最大**276名**が避難。
- 8月4日以降は1か所（関川村村民会館）に集約。
約1か月弱にわたり避難所を開設。
- 体育館のほか、感染症対策のため**個室を用意**。
一部では混雑した避難所も見られた。



2

2 住民の避難行動に関する調査の概要

調査時期：令和5年3月

調査対象：村上市及び関川村において、被害があった下記の地区の住民
(14地区 2,002世帯)

村上市：坂町駅前、藤沢、高根、小岩内、川部、平林、湯ノ沢、下鍛冶屋、貝附、
花立（計10町内・集落、1,313世帯）

関川村：下関、上関、高田、湯沢（計4地域、689世帯）

調査内容：「令和4年8月3日からの大雨による災害における避難行動に関するアンケート調査」（次のスライド）のとおり

調査方法：各地区の区長等から地区内の住民に配布（3月1日の広報誌配布時に配布）
村上市は、3月15日に区長がとりまとめて回収した。
関川村は、同封した返信用封筒により回収した。また、広報無線、防災メール
により回答を促した。

回答数：797世帯（39.8%）

村上市10町内・集落 382世帯（29.1%）

関川村 4地域 415世帯（60.2%）

3

2 住民の避難行動に関する調査の概要



「令和4年8月3日からの大雨による災害」における避難行動に関するアンケート調査

- このアンケート調査は、村上市及び関川村の地域住民の皆様を対象に、「令和4年8月3日からの大雨による災害」における災害発生当時の避難行動（※避難をしなかった場合も含む）についてお伺いするものです。
- 調査票は1世帯につき1部配付しておりますので、世帯の中で「避難する・避難しない」を判断した方がご回答ください。なお、世帯全員が同じ避難行動をとらなかった場合（例：避難する時期・場所が別々であった場合、世帯の一部の人のしか避難しなかった場合など）は、回答する方の避難行動をご記入ください。
- 回答については、各設問により、当てはまる答えの数字に○又は◎印を付けてください。また、「その他」を選んだ場合は、() 内に具体的に「その他」の内容をご記入ください。

令和5年3月
新潟県・村上市・関川村

【お問い合わせ先（受託事業者）】
※ 本調査業務につきましては、新潟県が下記事業者へ委託して行っております。
公益社団法人中越防災安全推進機構 野村 卓也
電話：0258-39-5525 メール：t.nomura@cosss.jp

【委託者】
新潟県防災局防災企画課 防災事業係 長谷川、鈴木
電話：025-282-1606（直通） メール：ngt130010@pref.niigata.lg.jp

I 回答する方の状況についてお伺いします。

問1 令和4年8月3日時点の、年齢を教えてください。（※当てはまるもの1つに○）

- | | | | |
|--------|--------|--------|----------|
| 1. 10代 | 3. 30代 | 5. 50代 | 7. 70代 |
| 2. 20代 | 4. 40代 | 6. 60代 | 8. 80代以上 |

問2 性別を教えてください。（※当てはまるもの1つに○。記入は任意です。）

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 回答しない |
|-------|-------|----------|

問3 令和4年8月3日時点の、同居している方の人数を教えてください。

あなたを含めて同居している方は () 人

問4 あなたを含めた同居している方の中に、要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児など災害時に配慮が必要な人）はいましたか。（※当てはまるもの1つに○）

- | | |
|-------|----------|
| 1. いた | 2. いなかった |
|-------|----------|

問5 お住まいの住家の被害状況を教えてください。（※当てはまるもの1つに○）

- | | | | |
|----------|----------|-------------|----------|
| 1. 全壊 | 3. 中規模半壊 | 5. 準半壊 | 7. 無被害 |
| 2. 大規模半壊 | 4. 半壊 | 6. 準半壊に至らない | 8. わからない |
- ※罹災証明書をお持ちの方は、罹災証明書の被害区分をご確認ください。

問6 村上市及び関川村では、洪水・土砂災害ハザードマップを作成し、各世帯に配布しているほか、ホームページでも公開しています。

令和4年8月3日時点における、お住まいの地域のハザードマップの活用状況を教えてください。（※当てはまるもの1つに○）

- | |
|--------------------------------------|
| 1. ハザードマップを見たことがあり、自宅の災害リスクを知っていた |
| 2. ハザードマップを見たことはあったが、自宅の災害リスクは知らなかった |
| 3. ハザードマップの存在は知っていたが、見たことがなかった |
| 4. ハザードマップの存在を知らなかった |

2 住民の避難行動に関する調査の概要



II 回答する方がとった避難行動についてお伺いします。

問7 村上市又は関川村から、避難情報（避難指示「警戒レベル4」又は緊急安全確保「警戒レベル5」）が発令されたことを知っていましたか。（※当てはまるもの1つに○）

- | | |
|-----------|-----|
| 1. 知っていた | 問8へ |
| 2. 知らなかった | 問9へ |
| 3. 忘れた | 問9へ |

問8 避難情報はどこ（誰）から入手しましたか。（※当てはまるものすべてに○）

- | | | |
|------------------------|--------------|------------------|
| 1. 屋外スピーカー（防災行政無線） | 6. 家族 | 11. インターネット |
| 2. 市・村配布の戸別受信機（防災行政無線） | 7. 知人・友人・親戚等 | 12. 防災アプリ（新潟県防災） |
| 3. 市・村からの防災メール | 8. 近所の人 | ナビ、NHK、Yahoo など |
| 4. 自主防災組織・自治会長・区長等 | 9. テレビ | 13. その他 () |
| 5. 消防団 | 10. ラジオ | () |

問9 避難（身の安全を確保する行動）はしましたか。（※当てはまるもの1つに○）

- | | |
|-------------------------------------|------|
| 1. 避難した（自宅内のより安全な場所への移動（身の安全確保）も含む） | 問10へ |
| 2. 避難しなかった | 問15へ |

問10 避難のきっかけは何でしたか。（※最も当てはまるものに◎、その他当てはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 1. 大雨の時はいつも避難しているから | 8. テレビ・ラジオ等で避難を呼びかけていたから |
| 2. 自宅・当時いた場所にいると不安だったから | 9. 市・村が防災行政無線や防災メールで避難を呼びかけていたから |
| 3. 大雨特別警報が発令されていたから | 10. 家族から「避難しよう」と言われたから |
| 4. 避難指示（警戒レベル4）が発令されていたから | 11. 消防団や自主防災組織・自治会長・区長等に避難を勧められたから |
| 5. 緊急安全確保（警戒レベル5）が発令されていたから | 12. 近所の人々が避難していたから |
| 6. がけや山の斜面に異常（土砂の崩落、出水など）を感じたから | 13. 同居家族の中に要配慮者がいたから |
| 7. 近くで土砂災害・浸水被害が発生したから | 14. 避難を援助してもらったから |
| | 15. その他 () |

問11 誰と避難しましたか。（※当てはまるものすべてに○）

- | | | | |
|--------------|---------|-----------|------------|
| 1. 家族 | 3. 近所の人 | 5. 自主防災組織 | 6. 一人で避難した |
| 2. 知人・友人・親戚等 | 4. 消防団 | 自治会長・区長等 | 7. その他 () |

問12 どこに避難しましたか。（※当てはまるもの1つに○）

- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| 1. 市・村が指定した避難場所 | 5. 自宅内より安全な場所（2階以上、崖とは反対側の部屋など） |
| 2. 市・村が指定した避難場所以外の公共施設 | 6. 土地が高い近くの場所 |
| 3. 知人・友人・親戚等の家 | 7. その他 () |
| 4. ホテル・旅館等の宿泊施設 | |

問13 避難の手段は何でしたか。（※当てはまるもの1つに○）

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. なし（自宅内の身の安全確保行動） | 以上でアンケートは終了です |
| 2. 車 | 問14へ |
| 3. 徒歩 | 問14へ |
| 4. その他 () | 問14へ |

問14 避難する途中で危険なことはありましたか。（※最も当てはまるものに◎、その他当てはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 特に危険なことはなかった | 4. 普段より移動に時間がかかった |
| 2. 道路が冠水して路面（足元）が見えにくかった | 5. 遠回りする必要があった |
| 3. 大雨、夜間などにより視界が限られた | 6. その他 () |
| | 以上でアンケートは終了です |

問15 問9で「2. 避難しなかった」を選択した方は、その理由を教えてください。（※最も当てはまるものに◎、その他当てはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 自宅・当時いた場所は安全だと思ったから | 6. 自宅外へ避難しようと思ったときに、外が避難できる状況ではなかったから |
| 2. 災害が起こりそうな雨ではないと思ったから | 7. 要配慮者がいたから |
| 3. これまでに災害が起きたことがなかったから | 8. ベットを飼っていたから |
| 4. 避難情報が発令されていたことを知らなかったから | 9. どこに避難したら良いかわからなかったから |
| 5. 大雨特別警報が発令されていたことを知らなかったから | 10. その他 () |
| | 以上でアンケートは終了です |

アンケート調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

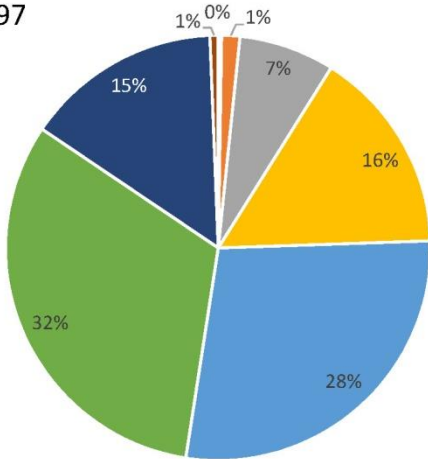
3 住民の避難行動に関する調査結果

(1) 回答者の状況について

ア. 年齢

回答者は、村上市・関川村ともに70代が最も多く、次に60代が多い。
(避難の判断をした人が回答)

N=797



■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代 ■ 80代 ■ 無回答



6

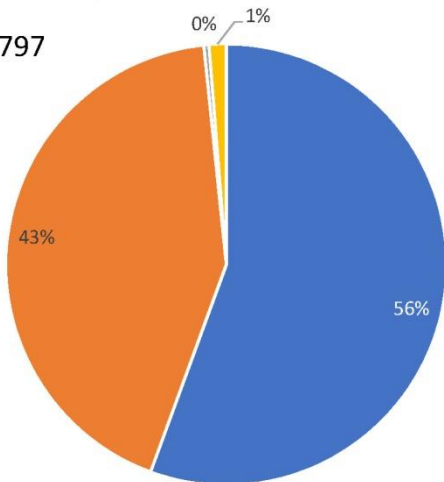
3 住民の避難行動に関する調査結果

(1) 回答者の状況について

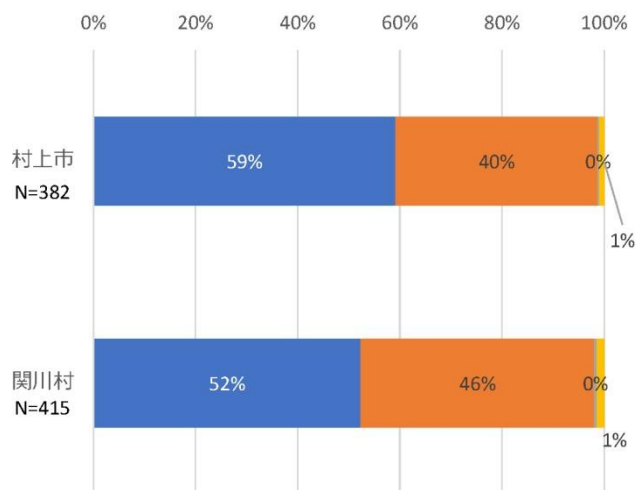
イ. 性別

回答者は、村上市では男性が59%、女性が40%、
関川村では男性が52%、女性が46%となっている。(避難の判断をした人が回答)

N=797



■ 男性 ■ 女性 ■ 回答しない ■ 無回答



7

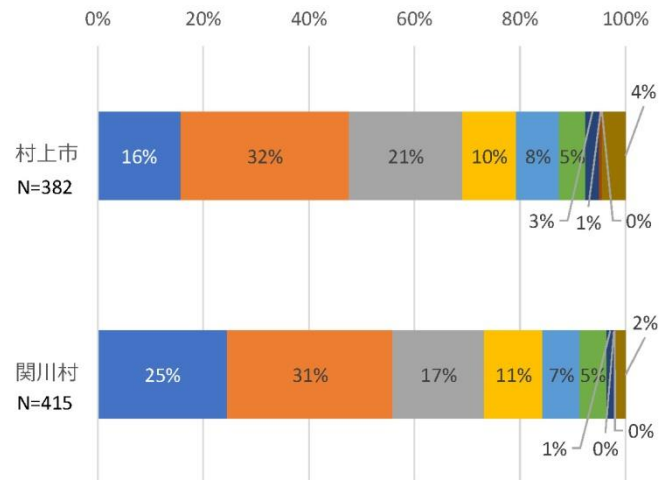
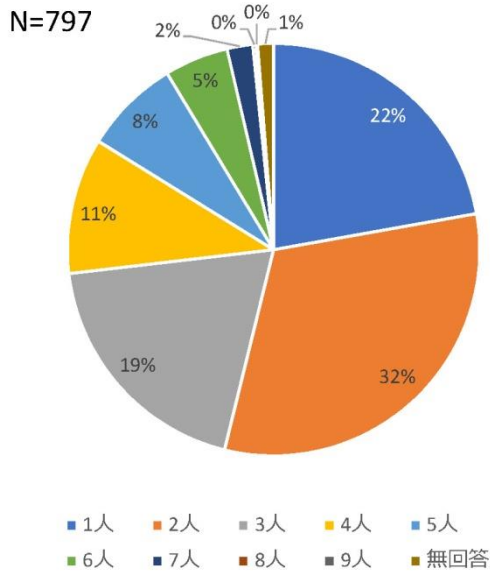
3 住民の避難行動に関する調査結果



(1) 回答者の状況について

ウ. 同居人数

村上市は、2人世帯が32%、3人世帯が21%、1人世帯が16%であった。
関川村は、2人世帯が31%、1人世帯が25%、3人世帯が17%であった。



8

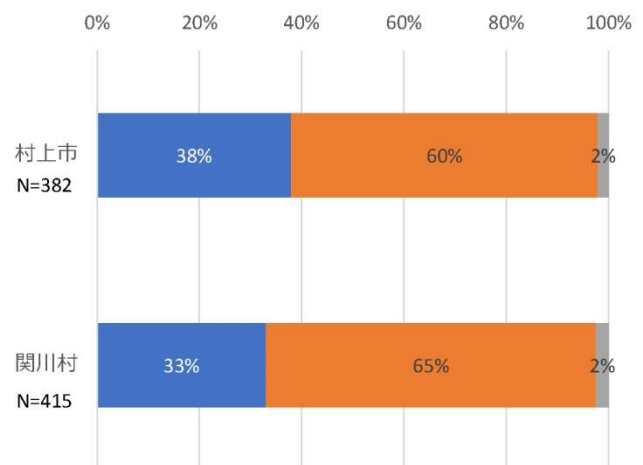
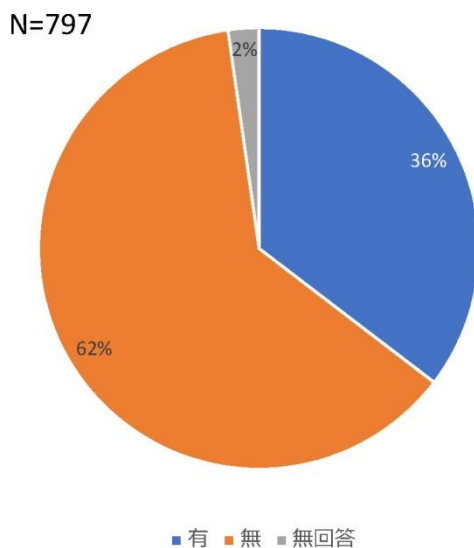
3 住民の避難行動に関する調査結果



(1) 回答者の状況について

エ. 要配慮者の有無

要配慮者がいる世帯は、村上市が38%、関川村が33%であった。



9

3 住民の避難行動に関する調査結果

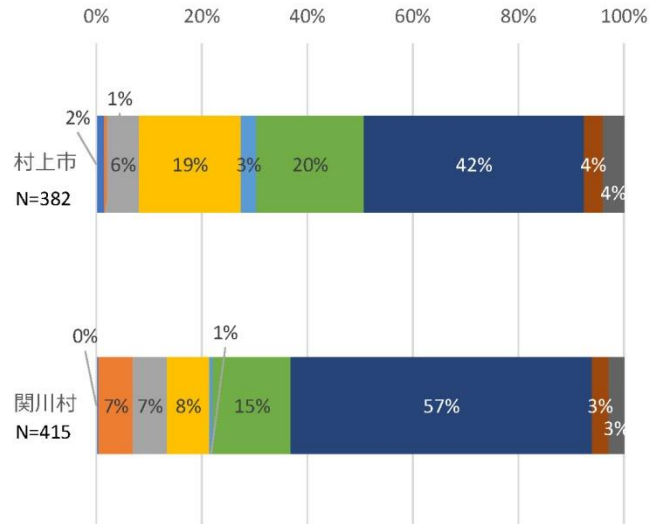
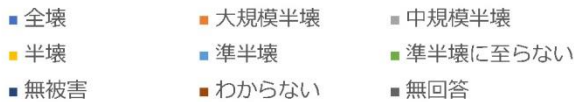
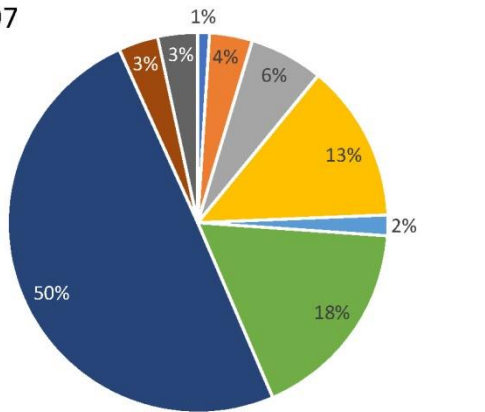
(1) 回答者の状況について

オ. 家屋の被害状況

回答者のうち、村上市は半壊以上の世帯が28%であり、関川村の22%であった。

※浸水による被害の場合、床上浸水で概ね半壊以上に区分される。

N=797



10

3 住民の避難行動に関する調査結果

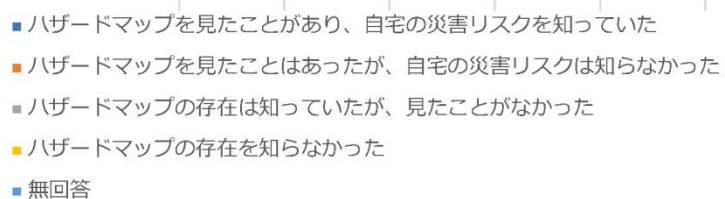
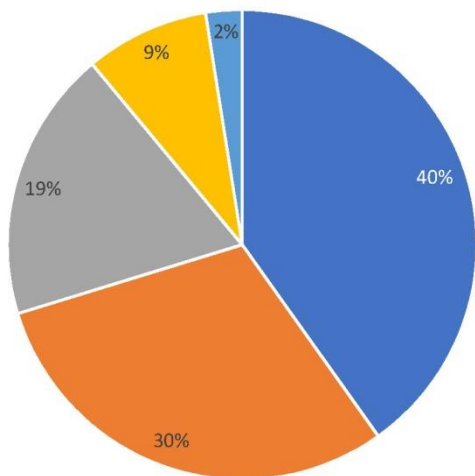
(1) 回答者の状況について

カ. ハザードマップの活用状況

ハザードマップを見たことがある人は、村上市が75%、関川村が66%であった。

ハザードマップで自宅の災害リスクを知っていた人は、村上市が41%、関川村が39%であった。

N=797



11

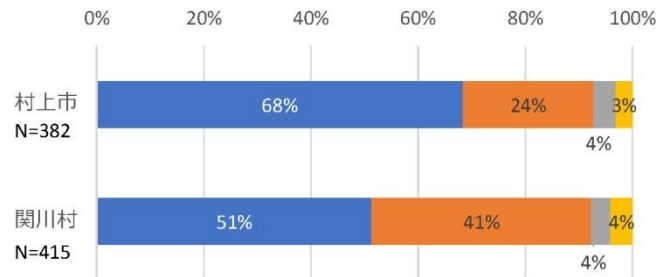
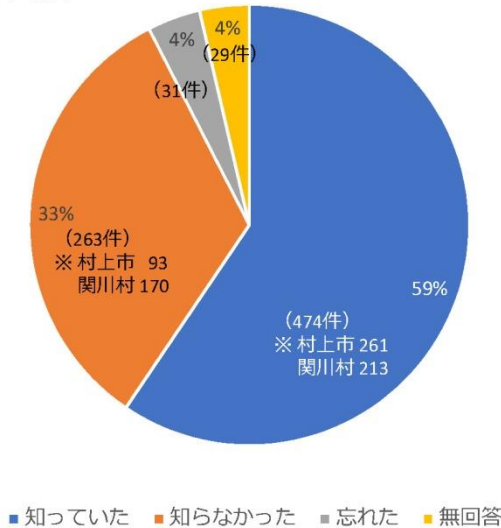
3 住民の避難行動に関する調査結果

(2) 回答者の避難行動について

ア. 避難情報の認知

村上市は、68%が避難情報（避難指示「警戒レベル4」又は緊急安全確保「警戒レベル5」）が発令されたことを知っていた。また、関川村は51%が避難情報が発令されたことを知っていた。

N=797



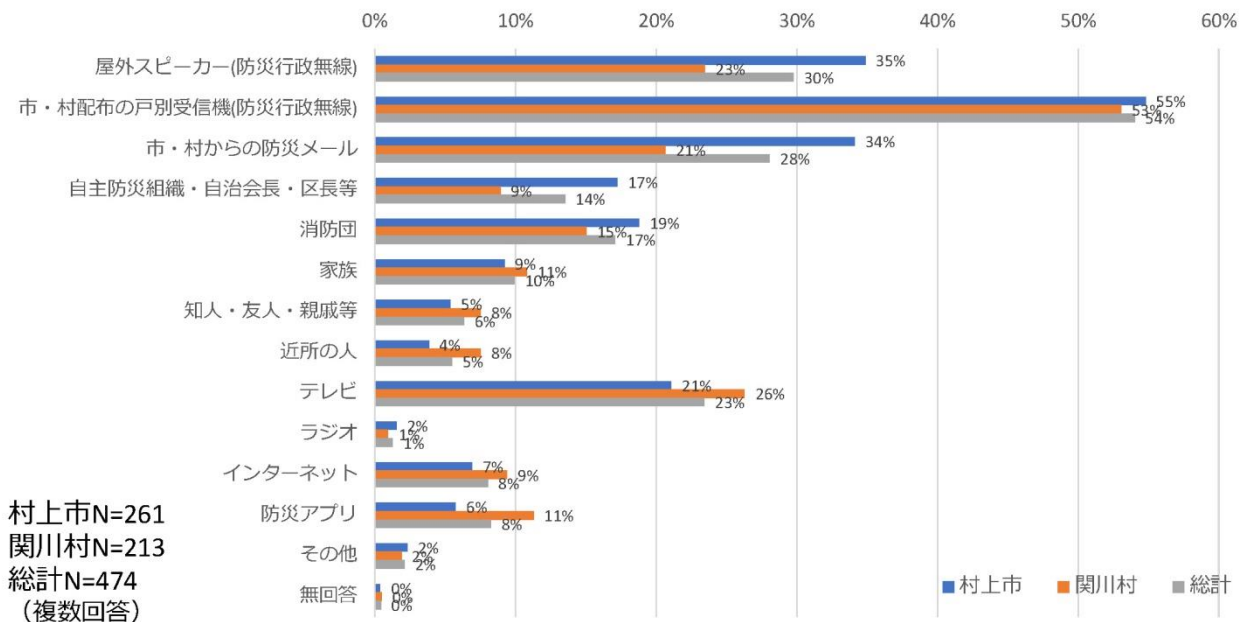
12

3 住民の避難行動に関する調査結果

(2) 回答者の避難行動について

イ. 避難情報の入手先

村上市、関川村ともに防災行政無線や防災メールなどから避難情報を入手している割合が高い。



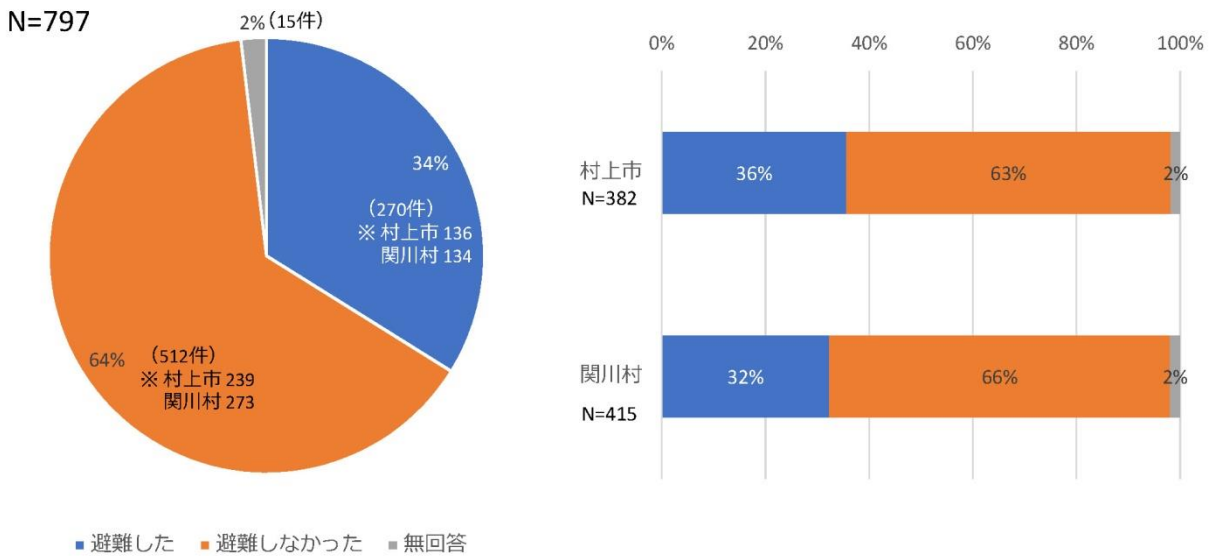
13

3 住民の避難行動に関する調査結果

(2) 回答者の避難行動について

ウ. 避難の有無

34%が避難をした（自宅内のより安全な場所への移動を含む）が、64%は避難しない。



14

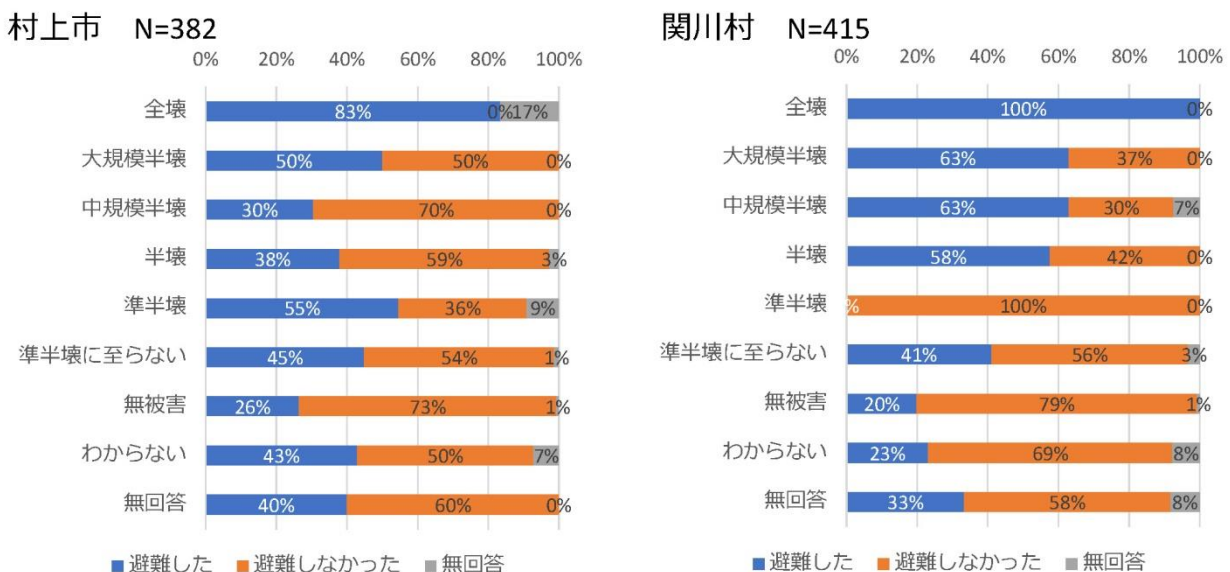
3 住民の避難行動に関する調査結果

(2) 回答者の避難行動について

ウ. 避難の有無

村上市では、大規模半壊～半壊でも半数以上が避難していない。

関川村では半数以上が避難している。 ※浸水による被害の場合、床上浸水で概ね半壊以上に区分される。



15

3 住民の避難行動に関する調査結果

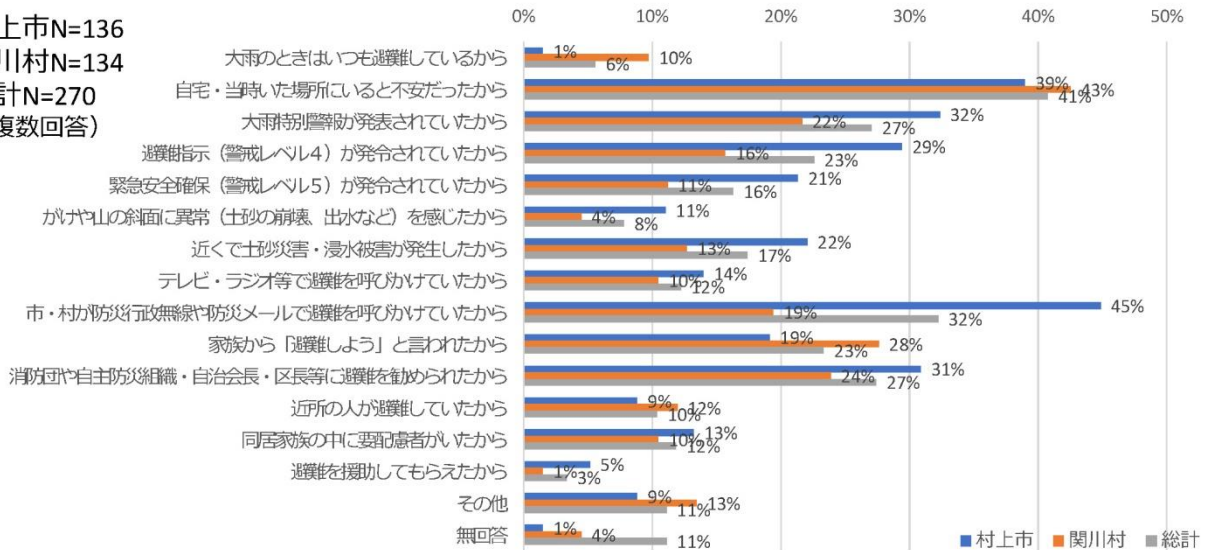


(2) 回答者の避難行動について

Ⅰ. 避難のきっかけ

自宅・当時いた場所にいると不安（41%）が最も多く、次に防災行政無線や防災メール（32%）、次に大雨特別警報（27%）と消防団・自主防等（27%）が多い。

村上市N=136
関川村N=134
総計N=270
(複数回答)



16

3 住民の避難行動に関する調査結果

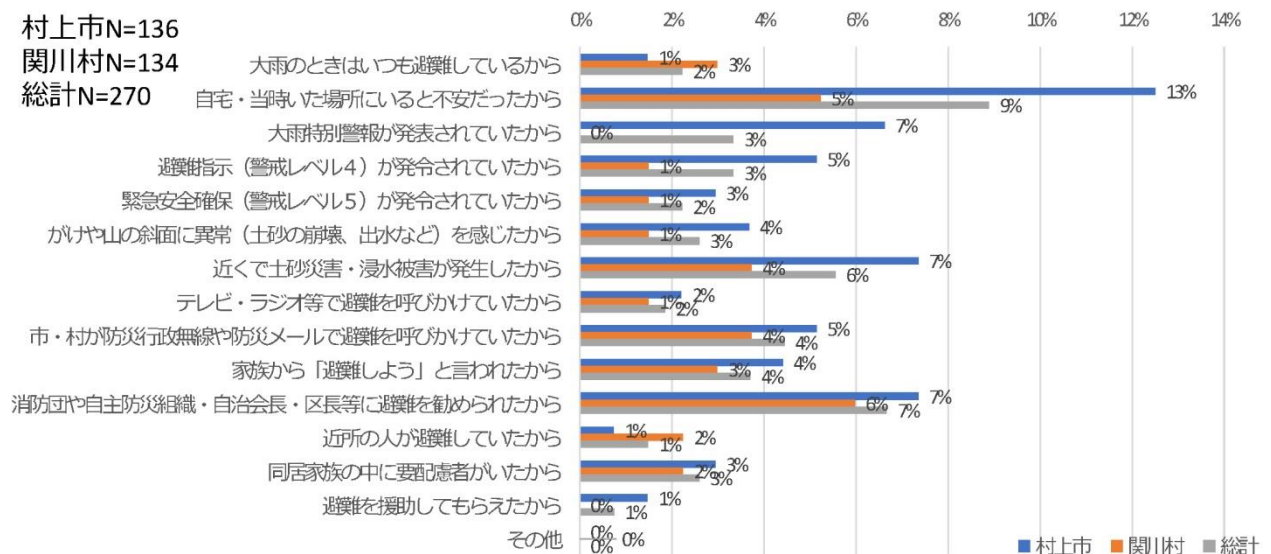


(2) 回答者の避難行動について

Ⅰ. 避難のきっかけ（最も当てはまるもの）

自宅・当時いた場所にいると不安（9%）が最も多く、次に消防団・自主防等（7%）、次に近くで土砂災害・浸水被害が発生（6%）が多い。

村上市N=136
関川村N=134
総計N=270



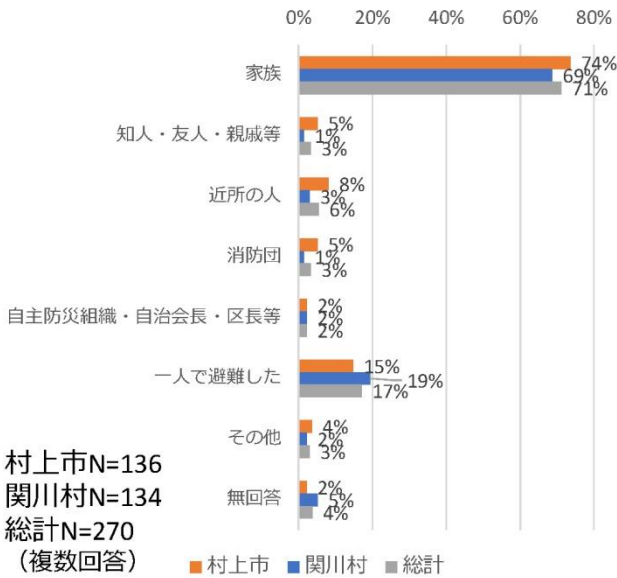
17

3 住民の避難行動に関する調査結果

(2) 回答者の避難行動について

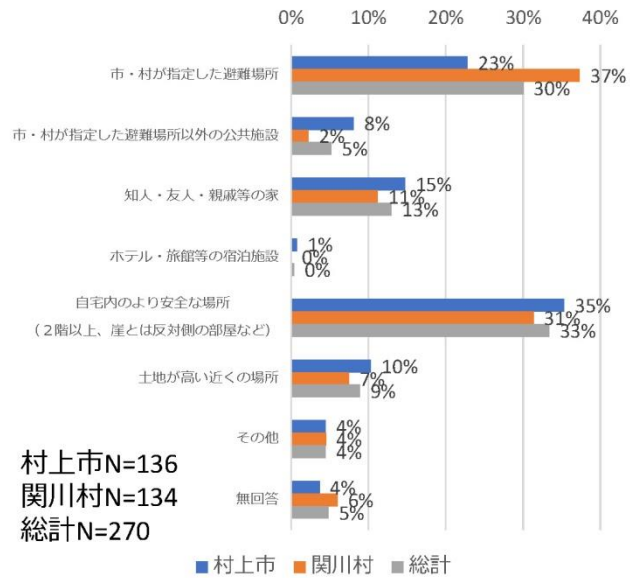
オ. 誰と避難

村上市も関川村もともに約7割が家族と避難している。



カ. 避難場所

村上市では、35%が自宅内のより安全な場所、関川村は、37%が指定避難所へ避難している。

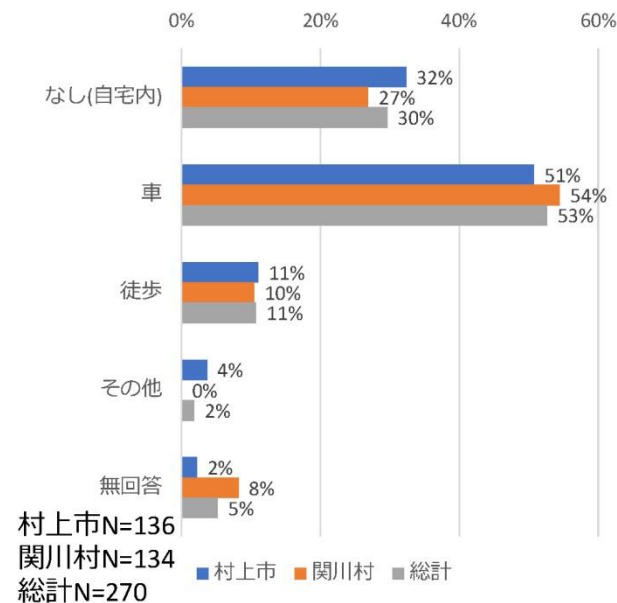


3 住民の避難行動に関する調査結果

(2) 回答者の避難行動について

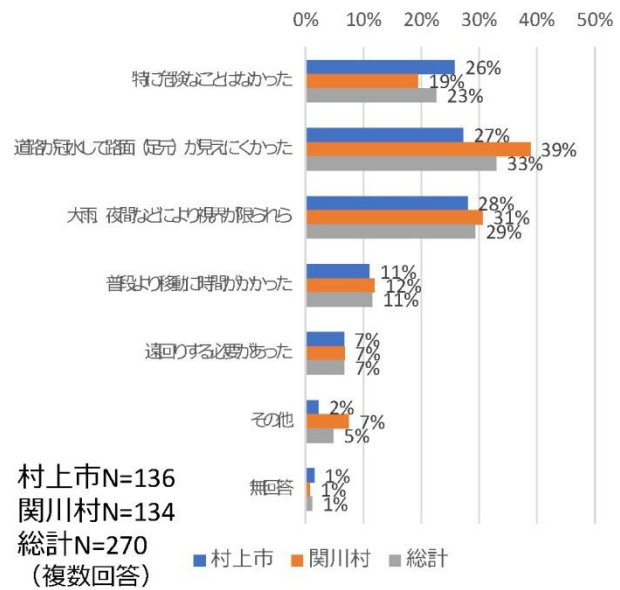
キ. 避難手段

53%が車で避難をしている。



ク. 避難途中の危険

村上市では、視界不良が28%で最も多い。
関川村では、道路冠水が39%で最も多い。



3 住民の避難行動に関する調査結果



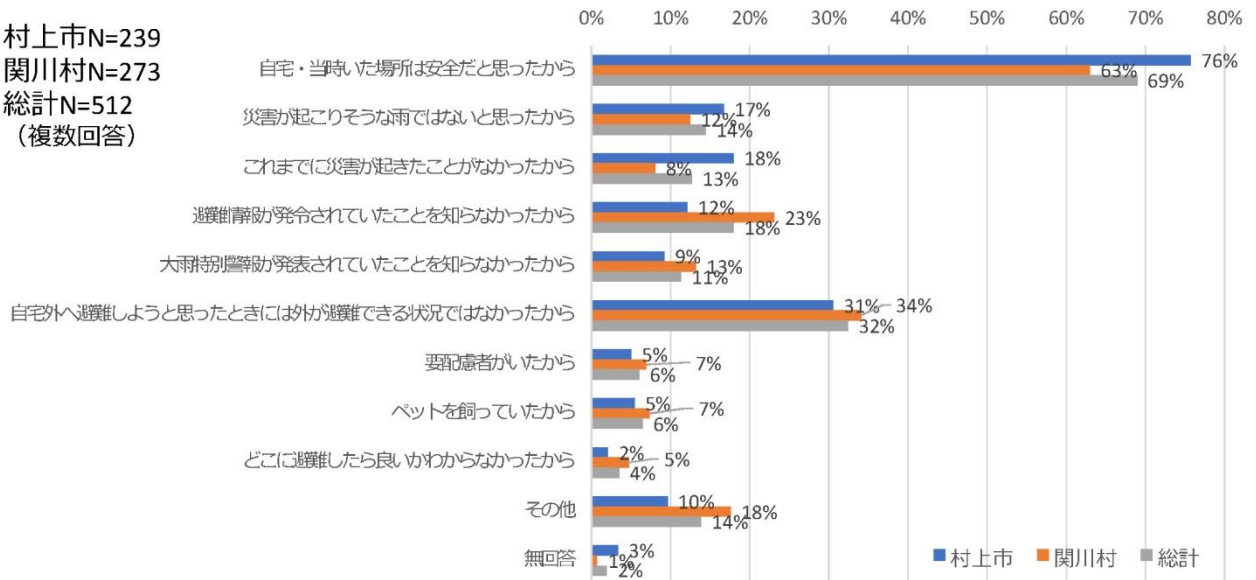
(2) 回答者の避難行動について

ケ. 避難しなかった理由

自宅・当時いた場所は安全だと思ったからの理由が69%で最も多い。

次に自宅外へ避難しようと思ったときには外が避難できる状況ではなかったからが32%で多い。

村上市N=239
関川村N=273
総計N=512
(複数回答)



20

3 住民の避難行動に関する調査結果



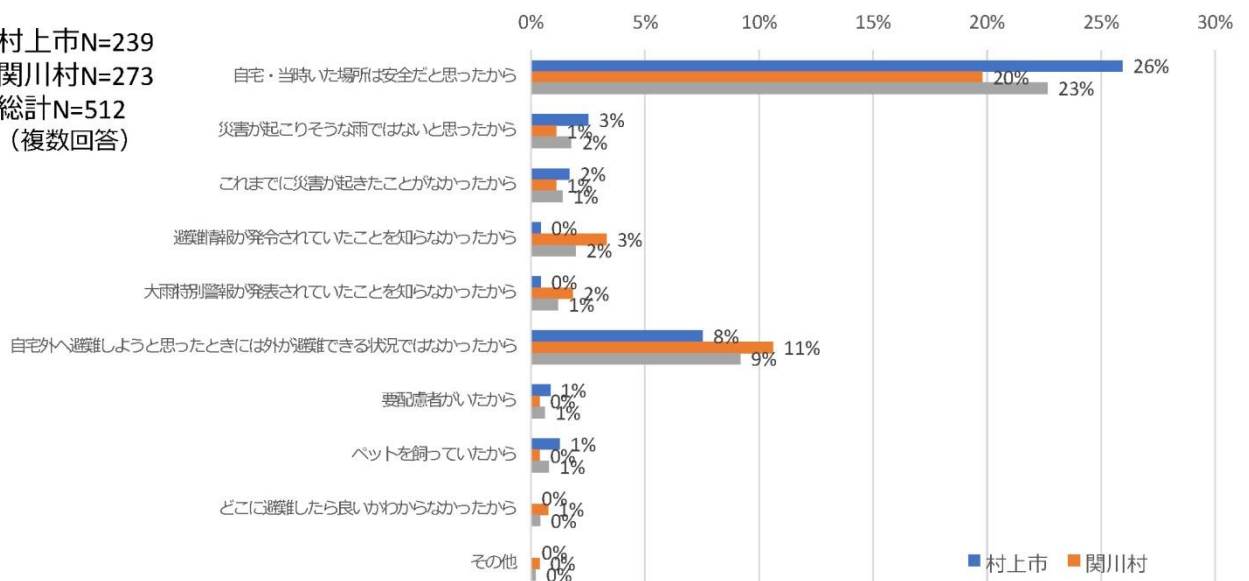
(2) 回答者の避難行動について

ケ. 避難しなかった理由 (最も当てはまるもの)

自宅・当時いた場所は安全だと思ったからの理由が23%最も多い。

次に自宅外へ避難しようと思ったときには外が避難できる状況ではなかったからが9%で多い。

村上市N=239
関川村N=273
総計N=512
(複数回答)



21

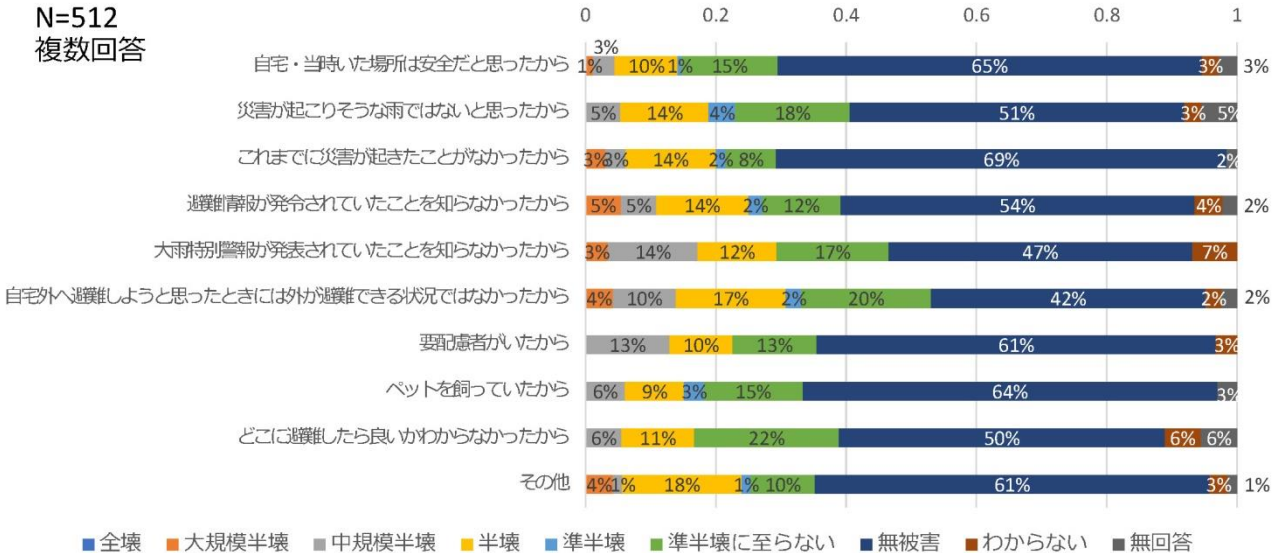
3 住民の避難行動に関する調査結果

(2) 回答者の避難行動について

ケ. 避難しなかった理由

自宅・当時いた場所は安全だと思った人のうち、半壊以上の被害は14%であった。

一方、外が避難できる状況ではなかった人のうち、半壊以上は31%であった。



22

4 住民の避難行動（まとめ）

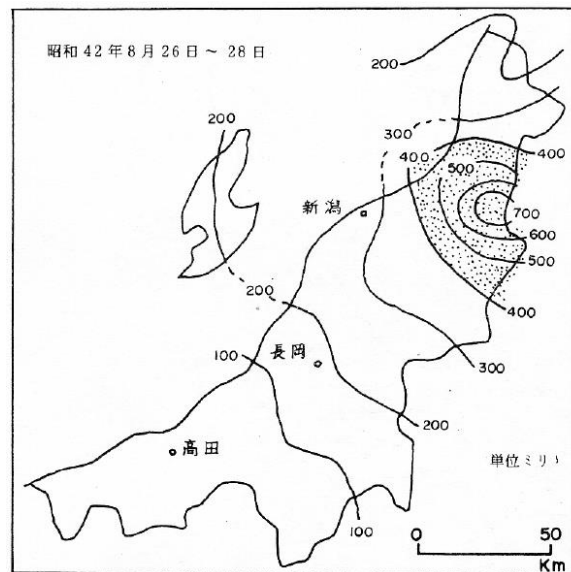
- 7割の住民がハザードマップを見たことがあり、その内の4割が自宅の災害リスクを知っていた。
- 半数以上の住民が、避難情報が発令されたことを知っていた。避難情報入手先は、戸別受信機や屋外スピーカーなどの防災行政無線により知ることが多い。
- 約3割が避難（自宅内のより安全な場所への移動を含む）をしていた。避難のきっかけは、自宅や当時いた場所にいると不安が最も多い。また、防災行政無線や防災メール、大雨特別警報、消防団・自主防災組織等の勧めも多い。
- 避難は、約7割が家族とともに避難していた。
- 避難場所は、自宅内のより安全な場所が最も多く、次に指定避難場所が多い。
- 避難手段は、車が半数以上であった。また、避難途中で道路冠水や視界不良により危険を感じた住民がそれぞれ約3割いた。
- 避難しなかった理由としては、自宅・当時いた場所が安全が約7割で最も多く、避難しようと思ったときには外が避難できる状況でなかった住民が約3割いた。

23

羽越水害（昭和42年8月）の被害概要

【概要】

- ▶ 昭和42年8月28日の羽越水害では、寒冷前線の停滞により、下越地方を中心に大雨となり、28日の日雨量は村上で283mm、中条（現胎内市）では473mmに達した。神林地域でも、28日04時から29日07時までに358mmを記録（以後は雨量計水没のため観測不能）した。
- ▶ 26日から29日にかけての期間降水量は、新潟県の下越地方や山形県の南西部では200mmを越え、多い所では新潟県黒川村の胎内川第一ダム（気象庁以外の観測所）で748mmを観測した。この付近を流れる中小河川が氾濫し、大規模な土砂災害が多発した。被害は特に新潟県下越地方に集中し、新潟県の死者・行方不明者は130名を超えた。
- ▶ このため一級河川荒川をはじめ中小河川が次々に増水し、荒川が破堤したことで市内全域にわたり大きな被害が発生した。

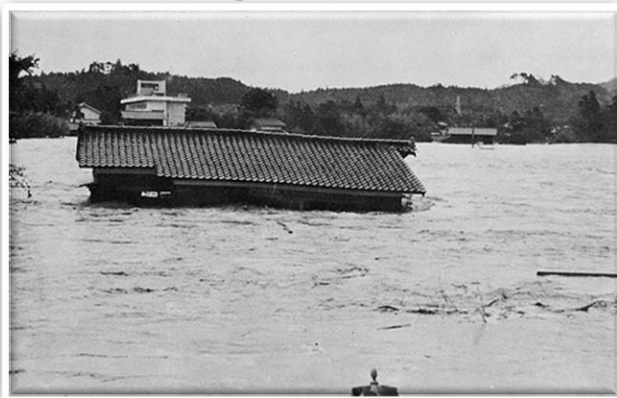


(出典：新潟地方気象台HP)

【昭和42年 羽越水害の被害概要】

	村上市	荒川町	神林村	朝日村	山北町	計
死者・行方不明		1	17	1		19
重軽傷者	1	44	100	2		147
住家全壊・流出		225	108			333
半壊	3	308	423			734
床上浸水	217	907	936	24	24	2,108
床下浸水	761	497	430	191	99	1,978

【羽越水害の被害状況】



▲旧平林小学校付近（神林地域 平林）



▲旧神林村役場付近（神林地域 岩船駅前）



▲住宅被害の状況（荒川地域 貝附）



▲石川からの濁流（村上地域 岩船下大町）

村上市災害記録誌

「令和4年8月3日からの大雨による災害」

令和6年(2024)3月発行

発行 新潟県村上市

編集 村上市総務課危機管理室

〒958-8501 新潟県村上市三之町1番1号

TEL. 0254-53-2111 FAX. 0254-53-3840

E-mail somu-b@city.murakami.lg.jp

URL <https://www.city.murakami.lg.jp>

